

サルトキハ郵便局所ハ委託證券受領證ト引換ニ委託ノ證券ヲ差出人ニ還付ス

第六十一條 收立郵局所ニ於テ委託證券ノ金額ヲ其ノ債務者ヨリ收立タルトキハ引受郵便局所ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及委託證券ノ受領證及取立金送達料ヲ差出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第六十二條 委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書差出方ニ關シテハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 現金取立ノ取消ニ關シテハ第五十二條ノ規定ヲ準用ス

第九節 約束郵便

第六十四條 普通郵便ニ依ル定期刊行物及印刷物ニ限り郵便官署ト特約シテ約束郵便ト爲スコトヲ得

約束郵便トシテ差出ス郵便物ハ他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ別ニ定ムル所ニ依リ約束郵便ノ印章ヲ押捺スヘシ

第六十五條 約束郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セス一定ノ期間滿了ノ後通貨ヲ以テ其ノ期間内ニ差出シタル郵便物ノ料金ヲ納付スヘシ

第十節 郵便私書函

第六十六條 郵便私書函使用人ハ郵便局所ニ設置シアル郵便私書函ニ依リ何時ニテモ普通郵便ニ依ル料金完納通常郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第六十七條 郵便私書函ハ二人以上ノ名義ヲ以テ一箇ヲ使用スルコトヲ得ス

第六十八條 郵便私書函ヲ使用セムト欲スル者ハ當該郵便局所ノ許可ヲ受ケ其ノ定ムル所ニ依リ一年分金五拾圓以下ノ郵便私書函料ヲ納ムヘシ

第三章 郵便物ノ差出

第六十九條 普通郵便ニ依ル通常郵便物ハ郵便函ニ差入ルヘシ但シ容積大ナルカ爲メ又ハ箇數多キカ爲メ郵便函ニ差入ルルコト能ハサルモノハ郵便局所ニ差出スヘシ

小包郵便物及特殊ノ取扱ヲ要スル通常郵便物ハ郵便局所ニ差出スヘシ但シ通知ヲ要セサル留置通常郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 郵便局所内ニ於テ郵便物ノ引受ヲ爲スハ郵便取扱時間中ニ限ル但シ別配達郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 郵便物ノ重量ハ其ノ郵便物ニ貼用シタル郵便切手ノ重量ヲモ合算ス但シ價格表記郵便物ニ使用スル逓信省發行ノ封皮シテ其ノ表面ニ印刷シタル封皮ノ量目ハ之ヲ算入セ

第七十二條ノ一 郵便料金ノ徴收ニ關シ同一ノ行政市區内ニ數箇ノ郵便區アルトキハ其ノ數箇ノ郵便區ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ其郵便區ノ一部行政市區外ニ涉ルモノアルトキハ其行政市區外ニ涉ル部分ヲ通シテ同一郵便區ト看做ス

第七十二條ノ二 別配達郵便料ニ關スル里程ハ郵便官署ノ定ムル所ニ依ル

第四章 郵便物ノ配達

第七十三條 深山孤島其ノ他僻陋ノ地ニシテ交通困難ノ場所ニ居住スル者ニ宛タル郵便物リシテ通常ノ方法ニ依リ配達シ難キモノハ凡テ郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス差出人ニ郵便物ヲ還付スル場合亦同シ

第七十四條 二名以上ニ宛タル郵便物ハ其ノ内ノ一名ニ配達ス

第七十五條 郵便局所ニ於テ誤テ郵便物ヲ正當受取人ニ在ラサル者ニ配達シタルトキ其ノ配達ヲ受ケタル者ハ速ニ其ノ事由及居所氏名ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ料金ヲ納付スルコトナク再ヒ郵便ニ差出スカ又ハ郵便局所ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ郵便物ヲ誤テ開披シタルトキハ之ヲ封緘シ又ハ相當ノ手當ヲ爲シ前

項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十六條 郵便局所カ郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受ケタル者ニ就キ其ノ郵便物ノ封皮及葉書ノ交付ヲ求メ又ハ其ノ郵便物ノ受授ニ關スル狀況ヲ探問スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第七十七條 正當ノ事由ナクシテ第七十五條ノ手續ヲ爲サス又ハ第七十六條ノ要求ニ應セサル者ハ科料ニ處ス

第五章 郵便物ノ轉送及還付

第七十八條 通常郵便物ノ轉送及還付ハ別ニ料金ヲ徴收セス

第七十九條 郵便物ノ差出人ハ未タ配達ヲ了セサル郵便物ノ名宛變更又ハ取戻ヲ請求スルコトヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絶スルコトアルヘシ

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ郵便物差立前ナルトキハ金五錢差立後ニシテ郵便ニ依ルモノハ金八錢電信ニ依ルモノハ取戻ノ請求ニ係ルトキハ金四拾錢名宛變更ノ請求ニ係ルトキハ金七拾錢ヲ前納スヘシ

第八十條 通常郵便物ノ受取人他ノ郵便區内ニ移轉シ其ノ移轉先分明ナルトキハ之ヲ其ノ移轉先へ轉送ス

小包郵便物ハ第三十二條又ハ第三十三條ニ依リ差出人又ハ受取人ヨリ其ノ轉送ヲ請求シタ

ルトキニ限り之ヲ轉送ス

第八十一條 通常郵便物ノ受取人既ニ其ノ宿所ヲ移轉セルトキハ其ノ配達先ニ於テ受取人ノ所在地ヲ集配人ニ明示シ該郵便物ノ轉送ヲ求ムルコトヲ得  
其ノ配達ヲ受ケタル後ナルトキハ該郵便物ニ轉送先ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ其ノ配達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ料金ノ納付ヲ要スルコト無ク再ヒ郵便ニ差出スコトヲ得若其ノ期限經過後郵便ニ差出シタルトキハ新ニ差出シタルモノト看做ス

通常郵便物受取人ノ移轉先不明ニシテ該郵便物ノ還付ヲ爲ス場合亦前二項ニ準ス

第八十二條 郵便物ノ受取人所在不明ナルトキ又ハ郵便料不納ナルニ依リ受取人ノ力受取ヲ拒ミタルトキ又ハ留置期間ヲ經過シタルトキハ配達シ能ハサル郵便物トシテ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

小包郵便物ニ關シテハ前項ノ外第三十二條ニ依リ差出人ヨリ豫メ其ノ轉送若ハ棄却ノ請求ヲ爲サス又ハ第三十二條ニ依リ受取人ヨリ轉送ノ請求ヲ爲ササル場合ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス轉送ノ請求ヲ爲シタル郵便物ニシテ其ノ請求ニ依リテ配達ヲ遂クル能ハサル場合亦同シ

第六章 損害賠償及報酬

第八十三條 郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差立郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償ハ損害ヲ生セシメタル郵便遞送人及郵便集配人ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

郵便法第五條ニ依ル報酬ハ助力ヲ求メタル郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ノ屬スル郵便局所在地ヲ管轄スル一等郵便電信局ニ之ヲ請求スヘシ

第八十四條 郵便物ノ配達又ハ還付ノ際郵便物ニ損害アリト申立タルトキハ申立人ヲシテ其ノ事由ヲ證明セシムヘシ郵便局ハ郵便法第三十四條ニ依リ損害ナシト看做ストキハ其ノ事由ヲ記載シタル調査ト共ニ再ヒ該郵便物ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項郵便物ニシテ損害ナシト看做ス能ハサルトキハ七日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ有無ヲ検査シ損害ナシト認メタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル調査ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付シ損害アリト認メタルトキハ申立人ニ於テ其ノ郵便物ノ任意受取方ヲ申出ツル場合ノ外損害調査ヲ作成シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者ニ交付ス

第八十五條 前條第二項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキ其ノ申立人受取人ナルトキハ郵便物ハ直ニ差出人ニ還付ス申立人差出人ナル場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依ル還付

シ能ハサル郵便物トシテ之ヲ取扱フ

五百七十

第八十六條

郵便物ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ其ノ種別、品名、箇數、實價、請求金額其ノ他必要ナル事項及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ若前二條ノ場合ニ受ケタル損害賠償ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ別ニ其ノ調書ヲ添附スヘシ

郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償又ハ第五條ニ依ル報酬ヲ請求スル者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第八十七條 損害賠償及報酬ノ請求ヲ受ケタル一等郵便電信局ニ於テハ其ノ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求人ニ通知ス

第八十八條 損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ郵便物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ郵便局所ハ直ニ該郵便物ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第八十九條 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ金額ハ左ノ割合ニ依ル

一 書留郵便物亡失ノトキハ一箇ニ付金拾圓

二 價格表記郵便物亡失ノトキハ表記金額ノ全額、毀損ノトキハ其ノ表記金額ト殘存價格トノ差額但シ表記金額市場價格ニ超過スルトキハ市場價格ニ依リ算定ス此ノ場合ニ於ケル市場價格ハ引受當時ニ於ケル引受郵便局所在地ノ價格ニ依ル

三 小包郵便物亡失又ハ毀損ノトキハ重量百匁又ハ其ノ端數毎ニ金貳拾錢

四 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失效ノトキハ其ノ實損額

附則

第九十條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年(二月)逓信省令第八號配達證明郵便規則同二十九年(九月)逓信省令第十九號代金引換小包郵便規則及此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第三款 郵便法ニ關スル雜則

第一 郵便物包裝規則

郵便物包裝規則(明治三十四年十二月逓信省令第五十七號)

第一條 定期刊行物、書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖ハ開封トナシ又ハ帶紙若クハ紐等ヲ以テ結束シ商品見本及雛形、博物學上ノ標本、農產物種子ハ開閉自在ナル箱又ハ蓋ニ納ムル等容易ニ内品ヲ點檢シ得ヘキ様包裝スヘシ但蠶種ハ郵便局所ノ承認ヲ經テ之ヲ密閉スルコトヲ得

第二條 小包郵便物ハ強質ノ紙又ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ包ミ若ハ箱又ハ罐等ニ入レ適當ニ包裝

シ外包ヲ毀損スルニ非サレハ内品ニ毀損ヲ被ラシムルコトナキ様充分ノ包裝ヲナスヘシ

第三條 錄亦其他之ニ類スル物品ハ適當ノ箱ニ藏メ又ハ其危險ノ部分ヲ覆ヒテ之ヲ箱ニ藏メ外覆ヲ毀損セサル様包裝スヘシ

第四條 流動體若クハ溶解シ易キ物又ハ臭氣ヲ發スヘキ物件ハ之ヲ罎又ハ罐ニ入レ樹脂又ハ錫蠟ノ類ヲ以テ密閉シ更ニ之ヲ適當ノ箱ニ藏ムヘシ但容易ニ溶解セサルモ尙溶解シ又ハ他物ヲ浸潤スヘキ虞アル物件等ハ防水布又ハ澁紙ノ類ヲ以テ適宜ニ包裝スヘシ

第五條 價格表記通常郵便物ハ其内品ノ種類ニ從ヒ適當ニ包裝シ尙ホ之ヲ遞信省發行ノ封皮ニ納ムヘシ但シ形狀ニ依リ遞信省發行ノ封皮ニ納メ難キモノハ適宜之ヲ包裝シ郵便局所ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 價格表記郵便物ハ其封目ニ遞信省發行ノ封緘紙ヲ貼付シ其封緘紙ト封皮トニ掛ケテ鮮明ニ封印スヘシ

第七條 價格表記郵便物ニ使用スル封皮及封緘紙ハ郵便局所及郵便切手賣下所ニ於テ之ヲ賣下クルモノトス  
前項ノ封皮及封緘紙ノ代價ハ別ニ之ヲ告示ス

## 第二 郵便切手葉書各種ノ印紙證券類取扱方

遞信省達第四百七十七號(明治二十四年十一月)

郵便切手葉書各種ノ印紙又ハ公債證書株券爲替手形約束手形其ノ他金錢ニ代用スル證券ハ第一種郵便物トシテ取扱フ可シ

## 第三 第四種郵便物トシテ差出スコトヲ得ルモノ、件

遞信省告示第五百八號(明治三十二年十月)

左ニ掲クルモノハ第四種郵便物トシテ差出スコトヲ得

一名刺ニ謹賀新年其ノ他之ニ類スル四字以内ノ成語ヲ印刷若クハ筆書セルモノ

一筆書ヲ加ヘサル私製葉書當用日記ノ類ニシテ文字又ハ繪畫ヲ印刷セルモノ但シ野紙等單

純ナル畫線ノミヲ印刷シタルモノハ此ノ限リニ在ラス

一印刷物ニシテ記載事項消息文ノ體裁ヲ具フルモノ其ノ實廣告文ト認メ得ヘキモノ

## 第四 臺灣島内ニ於ケル郵便物別配達料ノ件

遞信省令第六十八號(明治三十三年九月、同三六年同省令第三十號ヲ以テ改正)

銀行會社法令大全 第七編 第一章 第一節 第三款 郵便ニ關スル雜則

臺灣島内ニ於ケル郵便物別配達取扱ノ料金左ノ通相定メ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス  
 市内ハ金拾錢市外ハ三里迄六拾錢三里以上ハ十八町迄毎ニ金拾錢ヲ加フ但シ差出ノ際里程判  
 明セス悉皆前納シ得サルモ壹圓貳拾錢以上納付ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ其ノ不足額  
 ハ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セサルトキハ差出人ヨリ徴收ス  
 他ノ郵便區内ニ配達スルトキハ差出人指定ノ配達局ト名宛地トノ里程ニ應シ前項市外別配達  
 ノ規定ニ依リ料金ヲ徴收ス  
 船料ハ市内市外ニ拘ラス別ニ其ノ實費額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セサルトキハ  
 差出人ヨリ徴收ス

第五 貨幣封入及書留郵便物不着等ノ時取調請求方

遞信省令第十四號(明治二十五年十月)

貨幣封入郵便物及ヒ書留郵便物其受取人へ不着等ノ場合之カ取調ヲ請求セントスルモノハ可  
 成速ニ最寄郵便電信局又ハ郵便局ニ請求スヘシ若シ其郵便物ヲ差出シタル日ヨリ滿一箇年ヲ  
 經過シタルトキハ其請求ヲ受理セス

第六 郵便私書函貸與規程

郵便私書函貸與規程(明治三十三年九月遞信省告示第三百三十八號)  
 (同三十七年同省告示第四百三十二號ヲ以テ追加)

第一條 郵便私書函ヲ使用セントスルモノハ本規程ニ依リ郵便局ニ出願シ其許可ヲ受クヘシ  
 第二條 郵便局ニ於テ郵便私書函ノ使用ヲ許可シタルトキハ之レカ開閉ニ供スル鍵ヲ貸與ス  
 ヘシ

第三條 郵便私書函使用料ハ四月一日ヨリ九月三十日迄及十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄  
 ノ二期ニ分チ之ヲ前納スヘシ但期間ノ中途ニ於テ之カ使用ヲ始ムルモノハ其ノ期間ニ限リ  
 月割額ヲ以テ料金ヲ徴收ス

第四條 前條一期間ノ郵便私書函使用料左ノ如シ

東京、大阪、京都、函館、新潟、仙臺、廣島、金澤、熊本名占屋及在韓國ハ 金參圓

釜山、元山、仁川、京城、清國天津、北京、木浦、群山、鎮南浦ノ各局ハ 大形 金拾五圓  
 小形 金八圓

橫濱、神戸、長崎及在清國上海ノ各局ハ 金壹圓

其他各局ハ  
 第五條 郵便私書函ノ使用人次期ノ使用料ヲ前納セサルトキハ其使用ヲ停止スヘシ  
 第六條 郵便私書函ノ使用ヲ廢止シ又ハ前條ニ依リ之カ使用ヲ停止セラレタルモノハ直ニ其

鍵ヲ返納スヘシ若シ之ヲ返納セサルトキハ其延滞日數ニ應シ使用料ノ日割金額ヲ徴收ス

第七條 郵便私書函ノ使用人自己ノ過失ニ因リ郵便私書函ヲ毀損シ又ハ鍵ヲ亡失毀損シタルトキハ相當費用ヲ徴收スルコトアルヘシ

附則

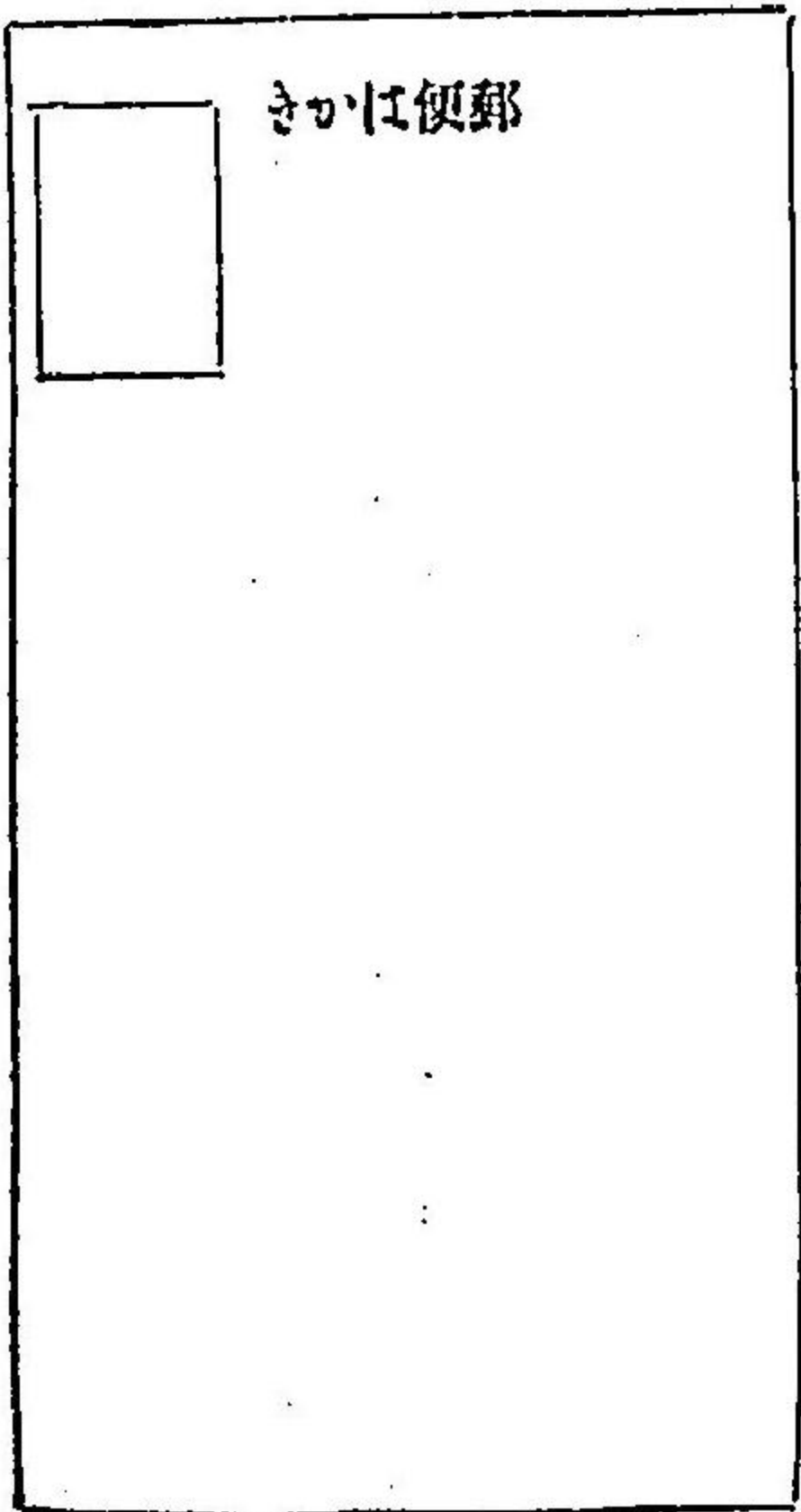
第八條 本規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

### 第七 私製葉書製式規則

私製葉書製式規則(明治三十六年十二月)

(逓信省令第六十一號)

第一條 私製葉書ノ表面ニハ脱色セサル印肉ヲ以テ左式ノ如ク鮮明ニ印刷スヘシ



第二條 私製葉書ノ表面ニハ前條記載文句ノ外宛名ノ記入ヲ妨ケサル限リハ左ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得

一 郵便葉書ニ相當スル外國文字

二 萬國郵便聯合ノ文字及之ニ相當スル外國文字

三 政府發行ノ通常葉書ト同一ノ注意文又ハ切手貼付方ノ注意文

四 發行所賣捌店ノ所在名稱

五 模様付輪廓但シ廣告文等或ル意味ヲナス文字ヲ用ウルコトヲ許サス

第三條 私製葉書用紙ノ品質ハ精良ニシテ韌力強ク且曲折ノ虞ナク政府發行ノ通常葉書ト同質以上ノモノタルコトヲ要ス

第四條 私製葉書用紙ノ重量及厚サハ政府發行ノ通常葉書若クハ萬國郵便聯合葉書ヲ以テ其ノ標準トス

第五條 私製葉書用紙ノ寸法ハ縦四寸五分以上四寸七分以内横二寸八分以上二寸以内ヲ以テ其ノ標準トス

第六條 私製葉書表面ノ紙色ハ白色又ハ白色類似ノ色合タルヘシ

第七條 私製葉書ノ裏面ニハ他ノ郵便物ニ汚斑ヲ來スカ如キ著色ヲナスコトヲ得ス

銀行會社法令大全 第七編 第一章 第一節 第三款 郵便ニ關スル雜則

第八條 透シ畫、浮出ハ宛名ノ記入ニ妨ナク且第三條ノ主旨ニ牴觸セサル限りハ之ヲ施スコトヲ得

第九條 外國郵便規則第七條ニ依リ調製シタル私製葉書ハ之ヲ内國郵便ニモ使用スルコトヲ得

第十條 本規則ノ規定ニ違背シタル私製葉書ハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス  
附則

第十一條 明治三十三年(九月)遞信省告示第三百五十八號及同年(十月)遞信省告示第三百九十七號ハ本規則施行ノ日コリ之ヲ廢止ス

〔備考〕 三十三年(九月)遞信省告示第三百五十八號ハ私製葉書ノ製式、同年(十月)同第三百九十七號ハ通常葉書ノ紙質ニ關スル件ナリ

第八 本邦約束郵便物ノ名宛人清國へ移轉シタルト  
キ完納料郵便物トシテ同國へ再發シ得ルノ件

遞信省告示第二十七號(明治三十八年三月)

自今本邦約束郵便物ノ名宛人清國へ移轉シタルトキハ完納料郵便物トシテ之ヲ清國へ再發ス

ルコトヲ得但シ清國郵便局ノ設置ナキ地ニ宛テタルモノニシテ民立信局ヲ經由シ遞送ヲ要スルモノハ信局ノ料金ヲ徵收セラルヘシ又清國郵便局設置アルモ鐵道若ハ汽船ノ通セサル地ニ宛テタルモノハ清國內地郵便料ヲ徵收セラルヘシ

### 第二節 小包郵便

#### 第一款 清韓小包郵便規則

清韓小包郵便規則(明治三十三年九月遞信省令第五十六號 同三十八年同省令第五十二號マテ數次改正)

第一條 日本、清、韓三國相互間竝ニ清、韓各國內ニ發著スル小包郵便物ニハ本規則竝ニ明治三十三年(九月)遞信省令第四十四號郵便規則中本規則ニ牴觸セサル規定ヲ適用ス

第二條 郵便規則ニ掲クル郵便禁制品ノ外關稅定率法其ノ他ノ法令竝ニ條約ニ依リテ輸出輸入ヲ禁シタル物品ヲ清韓小包郵便禁制品トス

第三條 日本、清、韓三國相互間ニ發著スル小包郵便物ノ料金ハ左ノ如シ

二百匁マテ 參拾錢

四百匁マテ 參拾五錢

六百匁マテ 四拾錢



九百々マテ 五拾錢  
一貫二百々マテ 六拾錢  
一貫五百々マテ 七拾錢

清、韓各國國內ニ發著スル小包郵便物ノ料金ハ日本内地小包郵便物ノ料金ニ同シ

第四條 小包郵便物ノ差出人ハ其ノ保有品ノ品名、數量及價格ヲ送票中ニ記載スヘシ但シ日本、清、韓三國相互間若ハ清國內ニ發著スル小包郵便物ノ場合ニ於テハ其ノ保有品ノ正味重量ヲモ送票中ニ記載スヘシ

第五條 清國及韓國ニ於ケル小包郵便物ノ配達及別配達ハ所在日本郵便局所ニ於テ郵便物ノ配達ヲ施行スル地ニ宛タルモノニ限り之ヲ施行ス其ノ以外ノ地ニ宛タルモノハ總テ之ヲ到著郵便局所ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

前項小包郵便物留置ノ期間ハ三十日トス

一第六條 清國若ハ韓國發日本へ到著ノ小包郵便物カ輸入税若ハ内國税ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日付ヨリ三十日以内ニ輸入税ノ場合ニ於テハ税額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ内國税ノ場合ニ於テハ明治三十七年勅令第百六十五號ニ據リ收入印紙若ハ特別ノ印紙ヲ通知書若ハ該輸入品

ニ貼付シ郵便局所ノ消印ヲ受ケ通知書ハ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ小包郵便物ヲ受取ルヘシ

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ差出スヘシ

關稅若ハ内國ノ賦課ニ關シ大藏大臣ニ訴願シタル場合及其ノ訴願ノ裁決ヲ得タルトキ亦同シ

第七條 前條ノ小包郵便物ノ保有品カ關稅定率法、稅關法若ハ其ノ他ノ法令ニ依リ關稅ヲ免除セラルヘキモノナル場合ニ於テ受取人カ其ノ免除ヲ得ントスルトキハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ

前項ノ申立ニ對シ受取人カ稅關ヨリ關稅免除許否ノ通知ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ郵便局所ニ提出スヘシ

第八條 第六條ノ郵便物留置期間ノ經過ハ同條第二項ノ場合ニ於テハ異議ノ判定若ハ訴願ノ裁決ヲ得ルマテ又第七條ノ場合ニ於テハ關稅免除許否ノ通知ヲ得ルマテ之ヲ中止ス

第九條 日本若ハ清國發韓國へ到著ノ小包郵便物カ韓國稅關ニ於テ輸入税ヲ課スヘキモノナ

ルトキハ其ノ郵便物ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ通知書ニ税金ヲ添へ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十條 輸入税ノ納付ヲ經テ韓國ニ輸入シタル小包郵便物ヲ普通商品ニ關シ日韓條約ニ規定スル期間ニ再輸出スル場合ニ於テ其ノ既納關稅ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ此ノ場合ニ於ケル小包郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

第十一條 韓國ヨリ日本若ハ清國へ宛小包郵便物ヲ差出ストキハ郵便局所ニ於テ其ノ郵便物保有品ノ價格ノ百分ノ五ニ當ル金額ヲ輸出税トシテ韓國稅關ニ代リ徵收ス

前項ノ輸出税ハ其ノ金額カ金五拾錢ニ滿タサルトキハ之ヲ徵收セス

第十二條 輸出税ノ納付ヲ經テ韓國ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ受取人ニ交付スル能ハサル爲韓國ニ於ケル差出人ニ還付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ韓國稅關ヨリ既納税金ノ拂戻ヲ受ケテ之ヲ其ノ差出人ニ交付ス但シ此ノ場合ニ於ケル郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ記ス

第十三條 韓國政府ノ特許ヲ要スル物品ヲ小包郵便物トシテ韓國ヨリ日本若ハ清國へ差出ス

トキハ其ノ特許證ノ謄本ヲ添附スヘシ若シ之カ添附ナキモノヲ郵便局所ニ於テ發見スルトキハ其ノ韓國ヨリ輸出前ニ係ルモノハ之ヲ差出人ニ還付シ又輸出後ニ係ルモノハ之ヲ韓國稅關ニ交付シ其ノ事由ヲ差出人ニ通知ス

第十三條ノ二 日本若ハ韓國發清國へ到着ノ小包郵便物若ハ清國內ヨリ發シ清國內へ著到ノ小包郵便物カ清國稅關ニ於テ輸入税ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ通知書ニ税金ヲ添へ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ受取人ヨリ直接ニ税金ヲ稅關ニ納付シ通關認許書ヲ受ケタル後之ヲ郵便局所ニ差出スモ妨ケナシトス

受取人前項ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付ス

第十三條ノ三 輸入税ノ納付ヲ經テ清國へ輸入シタル小包郵便物ヲ普通商品ニ關シ日清條約ニ規定スル期間内ニ再輸出スル場合ニ於テ其ノ既納關稅ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ又前條第一項但書ニ屬スルモノニ付テハ直接ニ清國稅關ニ差出スヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ小包郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封

紙ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

五百八十四

第十三條ノ四 清國ヨリ日本若ハ韓國へ發送ノ小包郵便物若ハ清國內ヨリ清國內へ發送ノ小包郵便物カ清國稅關ニ於テ輸出稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ差出人ニ送付ス差出人ハ通知書ノ日附ヨリ十日以内ニ通知書ニ税金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ差出人此ノ規定ヲ履行セサルトキハ該郵便物ハ之ヲ還付ス

差出人ハ豫メ其ノ差出サムトスル小包郵便物ヲ稅關ニ差出シ通關認許書ヲ受ケタル後之ヲ添附シテ郵便局所ニ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ手續ヲ要セス

第一項ノ輸出稅ハ其ノ金額カ清貨半兩ニ滿タサルトキハ之カ徵收ヲ免除セラルルモノトス第十三條ノ五 輸出稅ノ納付ヲ經テ清國ヨリ輸出シタル小包郵便物ヲ受取人ニ交付スル能ハサルカ爲清國ニ於ケル差出人ニ還付スル場合ニ於テハ郵便局所ハ清國稅關ヨリ既納税金ノ拂戻ヲ受ケ之ヲ其ノ差出人ニ交付ス前條第二項ニ屬スルモノニ付テハ差出人ヨリ直接ニ清國稅關ニ申出ツヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ郵便物ハ決シテ開披ヲ經ス且其ノ包裝及封緘ノ原形ノ儘ナルヲ要ス

第十四條 日本、清、韓三國相互間ニ於テ小包郵便物ヲ還付又ハ轉送スルトキハ更ニ第三條ノ郵便料ヲ徵收ス

小包郵便物ノ還付又ハ轉送ノ爲關稅若ハ內國稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ其ノ輸出稅ハ差出人又輸入稅若ハ內國稅ハ受取人ヨリ之ヲ徵收ス

第十五條 日韓間發著小包郵便物ノ電信ニ依ル取戻請求ニ關スル料金ハ金壹圓貳拾錢トシ同名宛變更請求ニ關スル料金ハ金貳圓拾錢トス清國內地間並ニ清國ト日本、韓國トノ間ニ發著スル小包郵便物ノ取戻若ハ名宛變更又ハ代金引換ノ取消若ハ金額變更ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

第十六條 清、韓國ノ郵便局所ニ差出シタル小包郵便物ニ關スル損害ノ賠償ハ其ノ差出郵便局所ニ請求スヘシ但郵便受取所ニ差出シタルモノニ付テハ該受取所ヲ管轄スル局所ニ請求スヘシ

### 附則

第十七條 本規則ハ明治三十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十三年(三月)遞信省告示第九十七條ハ之ヲ廢止ス

## 第二款 宇品山海關間往復船内ニ設置スル 郵便取扱所小包郵便料金ノ件

遞信省令第五號(明治三十四年)

五百八十六

宇品山海關間往復ノ通信船内ニ設置セル郵便取扱所ニ於テ取扱フ小包郵便物ニハ明治三十三年(九月)遞信省令第五十六號清韓小包郵便規則ヲ適用シ碇泊中同取扱所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ハ其碇泊地ニ設置セル帝國郵便局所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ト同一トシ又航海中引受クル小包郵便物ノ料金ハ其第一次ノ著港地ニ設置セル帝國郵便局所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ト同一トス

第二節 郵便爲替

第一款 郵便爲替法

郵便爲替法(明治三十三年三月)

法律第五十五號

第一條 郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス

第二條 通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外差出人ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

電信爲替證書ハ郵便官署ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

第三條 郵便官署ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ對スル郵便爲替金ノ拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ヲ停止シ又ハ其ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第四條 郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第五條 郵便官署ハ受取人ノ眞僞ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セス

第七條 郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第八條 郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第九條 郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十條 郵便爲替證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ通常爲替及電信爲替ニ在リテハ九十日小爲替ニ在リテハ六十日トス

前項ノ期間ハ空通不便ノ地方ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 郵便官署ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遅延シタル爲經過シタル日數ハ前條ノ有效期間ニ算入セス

第十二條 郵便爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚損シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ差出人又ハ受取人ニ於テ再度證書ノ交付又ハ爲替金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第十三條 郵便爲替證書ノ有效期間滿了ノ日ヨリ三箇年間前條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ郵便爲替金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十四條 成規ノ手續ヲ經テ爲替金ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條 郵便官署ハ郵便爲替金拂渡ノ遅延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十六條 郵便爲替ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例第十二章及第二百四十二條ハ之ヲ廢止ス

第十八條 本法施行前ニ發行シタル郵便爲替證書及小爲替證書ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用

ス但シ本法施行前其ノ有效期間滿了シタルモノニ在リテハ第十三條ノ期間ハ五箇年トシ其ノ有效期間滿了セサルモノニ在リテハ第十條第一項ノ期間ハ郵便爲替證書ニ付テハ百二十日郵便小爲替證書ニ付テハ六十日トス

第二款 郵便爲替規則

郵便爲替規則(明治三十三年逓信省令第四十五號  
同三十九年同省令第十號送致改正)

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

郵便爲替貯金管理所ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限り之ヲ取扱フ

第二條 郵便爲替證書一枚ノ金額制限ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

- 一 通常爲替 金五拾圓
- 一 電信爲替 金五拾圓
- 一 小爲替 金五圓

通常爲替及小爲替ノ金額ハ厘位未滿電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第三條 郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

通常爲替	金額拾圓以內	六錢
	同 貳拾圓以內	拾錢
電信爲替	金額拾圓以內	參拾錢
	同 貳拾圓以內	四拾錢
小爲替	金額拾圓以內	參拾錢
	同 貳拾圓以內	四拾錢

第三條ノ二 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關シ當該官署相互間又ハ當該官署

ト其ノ官吏トノ間ニ受授スル官金及遞信大臣ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ノ間ニ受授スル  
金員ハ無料通常爲替ト爲スコトヲ得

前項ノ無料通常爲替ニ對シテハ其ノ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス

第四條 郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一名ニ限ル

第五條 郵便爲替證書ハ任意ニ讓渡スコトヲ得ス但シ小爲替證書ニシテ受取人ノ指定ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 代人ヲ以テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ其ノ請求證書等ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代人ハ請求書證書等ニ代人タルノ肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第七條 法人又ハ法人ニアラサル團體ヨリ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求書證書等ニ其ノ名稱ヲ記載調印スルカ又ハ其ノ代表者若ハ金錢ノ出納ヲ掌ル者ニ於テ其ノ肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第八條 印章ヲ所有セサル爲メ本規則ニ規定スル各種ノ請求書證書等ニ調印スルコト能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ記名調印セシムヘシ

第九條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替金受領證書ノ提出又ハ呈示ヲ要スル場合ニ於テ亡失等ノ爲メ之ヲ提出又ハ呈示シ能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ其ノ證明書ヲ差出スヘシ

第十條 千島國琉球國小笠原島伊豆諸島臺灣及樺太ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有効期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモノハ此ノ限ニ在ラス

千島國及樺太ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル通常爲替證書及電信爲替證書ニ對シテハ  
毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日マテハ其ノ有効期間ニ算入セス

第十一條 郵便爲替ニ關シ當該事務員ノ過失ニ因リ左ノ事故ヲ生シタルトキハ差出人又ハ受取人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ其ノ既納ノ料金を還付ス

一 電信爲替證書ノ送達ヲ通常爲替證書ノ到達スヘキ期限ニ後レシメ因テ該爲替金ノ拂戻トナリタルトキ

二 郵便爲替ノ特殊取扱ニ關シ料金を納付ヲ要シタル手續ヲ脱漏シタルトキ

前項ノ請求ハ郵便爲替證書有效證書期間滿了後三箇月以内ニ料金を納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ

第二章 通常爲替

第一節 振出

第十二條 通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ通常爲替證書及通常爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

前項通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標、商號又ハ其他ノ符號ヲ附記スルコトヲ得

第十三條 振出郵便局所ハ郵便ニ依リ前條通常爲替振出請求書ヲ拂渡郵便局ニ送付ス

第十四條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際豫メ一定ノ期間ヲ限リ其ノ爲替金拂渡猶豫ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替振出請求書ニ猶豫スヘキ日數ヲ記載スヘシ

第十五條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際通常爲替證書ノ送達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金をシテ通常爲替證書一枚毎ニ金五錢ヲ納付スヘシ

前項ノ請求ヲ爲シタル差出人ハ通常爲替振出請求書餘白ニ爲替金送付ノ目的ヲ記載シ自己ノ宿所氏名ト共ニ受取人ニ之レカ通知ヲ請求スルコトヲ得前項爲替金送付ノ目的ハ通常爲替證書送達ノ際其ノ餘白ニ記入スルモノトス

第十六條 通常爲替ノ受取人所在不明等ノ爲前條ノ通常爲替證書ヲ送達スルコト能ハサルトキハ之ヲ差出人ニ返付ス

第十七條 通常爲替ノ差出人爲替振出後通常爲替振出請求書ニ自己又ハ受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出シ郵便又ハ電信ニ依リ拂渡郵便局所ニ訂正事項ノ通知ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差出人ハ其ノ料金をシテ郵便ニ依ルモノハ金參錢電信ニ依ルモノハ該電報料錢ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十八條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二節 拂渡

第十九條 通常爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十條 拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ通常爲替振出請求書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス但シ第十五條第二項ノ請求アルモノニ對シテハ本條第一號ノ尋問ヲ省畧スルコトアルヘシ

- 一 差出人ノ宿所氏名
- 二 受取人ノ宿所氏名

三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第二十一條 通常爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

- 一 爲替金額
- 二 爲替證書ノ記號番號
- 三 爲替證書ヲ發行シタル郵便局所主務者ノ記名調印

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ爲替金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 通常爲替證書違式ノトキ
- 二 通常爲替振出請求書違式ノトキ
- 三 通常爲替請求書未達ノトキ
- 四 通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサルトキ
- 五 拂渡資金缺乏ノトキ

第二十三條 拂渡郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ通常爲替證書ノ裏面ニ其ノ事由及日數ヲ記載證印シ之ヲ受取人ニ返付ス

第二十四條 第二十二條ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ト雖其ノ停延期間内ニ事故判明スルカ又ハ資金充實シ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス

第二十五條 通常爲替ノ受取人ハ通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ爲替金ノ假拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 通常爲替ノ受取人通常爲替證書ノ金額ニ符合セサル爲替金ヲ受取ルトキハ通常爲替證書裏面ニ其ノ金額ヲ記載シ記名調印スヘシ

第三節 拂渡停止及拂戻

銀行會社法令大全 第七編 第一章 第三節 第二款 郵便爲替規則



第二十七條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡停止ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ請求ヲ受ケタル郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ニ通知ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金參錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ  
第二十八條 郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ通常爲替ノ差出人爲替金拂渡停止ノ解除ヲ請求セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ振出郵便局所ニ差出スヘシ

差出人通常爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 通常爲替ノ差出人通常爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル場合ニ於テ爲替金拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ郵便爲替金拂戻請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ振出郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

振出郵便局所ハ拂渡郵便局所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ナキコトヲ確認シタル後前項ノ郵便爲替拂戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ郵便爲替金拂戻請求書中爲替金受領證印ノ部ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條 第三十條第二項及第三十一條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十三條 本章第二節ノ規定ハ通常爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第三十四條 通常爲替ノ差出人又ハ受取人ハ拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得  
差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 通常爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡又ハ拂戻ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第三十六條 通常爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求

求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金證書ヲ呈示スヘシ

第三十七條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十八條 郵便局所ニ於テ拂渡又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ認可スルトキ又ハ既ニ爲替金ノ拂渡若ハ拂戻ヲ爲シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知ス

第三章 電信爲替

第三十九條 電信爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ電信爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十條 電信爲替ハ振出郵便局所ニ於テ電信ニ依リ爲替金額、受取人ノ宿所氏名及差出人ノ氏名ヲ拂渡郵便局所ニ通報ス但シ電信ヲ取扱ハサル郵便局所ニ在リテハ該通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル

前項ノ通報ハ差出人ニ於テ至急電報ノ取扱又ハ郵便接續ノ場合ニ於テ別配達ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別ニ其ノ料金トシテ至急電報ノ取扱ニ對シテハ金四拾錢別配達ノ取扱ニ對シテハ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十一條 拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之ニヨリ電信爲替證書ヲ

作り之ヲ受取人ニ送達ス但シ郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ニ於テ拂渡スヘキモノナルトキハ其ノ附近ニ在ル郵便集配事務及郵便爲替事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ本文ノ手續ヲ爲ス

差出人ハ爲替振出ノ際電信爲替證書ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十二條 第二章ノ規定ハ第十二條乃至第十五條ヲ除ク外之ヲ電信爲替ニ準用ス

第四章 小爲替

第四十三條 小爲替ノ差出人ハ爲替金及爲替料ヲ郵便局所ニ差出シ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十四條 小爲替ノ差出人ハ小爲替證書相當欄ニ拂渡郵便局所名及受取人ノ宿所氏名ヲ記入スヘシ但シ小爲替證書持參人ヲシテ爲替金ノ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキ又ハ隨意ノ郵便局所ニ於テ其ノ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキハ受取人宿所氏名又ハ拂渡郵便局所名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

第四十五條 小爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變更シ若ハ其ノ指定ヲ取消サムトスルトキハ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ郵便局所ニ呈示シ其ノ認可ノ證印ヲ

受クヘシ

六百

第四十六條 小爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ小爲替證書ニ宿所氏名ヲ記載シ調印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第四十七條 小爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

- 一 爲替金額
- 二 爲替證書ノ記號番號
- 三 受取人及拂渡郵便局所ノ指定欄
- 四 爲替證書ノ日附

第四十八條 小爲替證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ爲替金ノ拂戻ヲ爲サス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 第二十二條乃至第二十四條第二十六條第三十條第二項及第三十一條ノ規定ハ之ヲ小爲替金ノ拂渡及拂戻ニ又第三十四條第三十五條及第三十八條ノ規定ハ小爲替金拂戻郵便局所ノ變更ニ之ヲ準用ス但シ第三十條第二項ノ場合ニ於テハ尙差出人ノ宿所ヲ記入スヘシ又第三十條第二項第三十一條及第三十五條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ小爲替一口ニ付金參錢ヲ納付スヘシ

### 第五章 再度證書

第五十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人郵便爲替ノ證書有効期間經過ノ爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ再度證書請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ受取ルヘシ

前項ノ請求書ニハ有効期間經過ノ爲替證書ヲ添付差出スヘシ

第五十一條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便爲替金受領證書ヲ差出シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便爲替ノ受取人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ相當保證人ヲ立テ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十二條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金六錢小爲替ハ金參錢ヲ納付スヘシ

第五十三條 再度證書ノ請求者再度證書發行ノ通知ヲ受ケタルトキハ再度證書請求書ノ受領證書ヲ其ノ指定シタル郵便局所ニ差出シ再度證書ノ交付ヲ受クヘシ

第五十四條 小爲替證書ノ亡失ニ因ル再度證書ノ請求ニ對シテハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ再度證書ヲ發行セス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ

限ニ在ラス

六百二

### 第六章 郵便爲替金拂渡通知

第五十五條 郵便爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際郵便又ハ電信ニ依ル郵便爲替金拂渡濟通知ヲ請求スルコトヲ得

小爲替差出人前項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ宿所氏名ヲ申出ツヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付郵便ニ依ルモノハ金參錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第五十七條 郵便爲替金拂渡濟通知ノ請求アル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺シ且小爲替ナルトキハ證書餘白ニ差出人ノ宿所氏名ヲ記入ス

第五十八條 郵便爲替ノ受取人郵便ニ依ル拂渡濟通知ヲ要スル爲替金ヲ受取ルトキハ郵便爲替金拂渡濟通知書ニ記名調印スヘシ

第五十九條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡濟通知ヲ要スル郵便爲替金ヲ拂渡シタルトキハ郵便ニ依ルモノハ前條ノ通知書ヲ差出人ニ送付シ電信ニ依ルモノハ電報ニ依リ振出郵便局所ヲ經テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

### 第七章 爲替金居宅拂

第六十條 爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得但シ差出人ハ爲替振出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲ニ本條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

郵便爲替金ノ居宅拂渡ヲ取扱フヘキ郵便局所及區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十一條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替爲一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金四錢小爲替ハ金貳錢ヲ納付スヘシ

第六十二條 郵便爲替振出ノ際爲替金居宅拂ヲ請求シタル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺ス

第六十三條 郵便爲替ノ受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セムトスルトキハ其ノ宿所氏名、郵便爲替種別、證書記號番號及爲替金額ヲ記載シタル居宅拂請求書ヲ作り之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

前項請求書ハ無料郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該請求書封入ノ郵便物封皮ニ爲替事務ト明記スヘシ

第六十四條 郵便爲替金居宅拂ハ差出人ノ請求ニ係ルトキハ其ノ拂渡郵便局所ニ通常爲替振出請求書又ハ爲替電報ノ到着シタル日ヨリ又受取人ノ請求ニ係ルトキハ居宅拂請求書受附ノ日ヨリ遅クモ三日以内ニ之ヲ爲ス但シ第二十二條ノ事故アリテ本條ノ期間内ニ拂渡ヲ爲

スコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス

第六十五條 郵便爲替ノ受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ居宅拂ヲ了スルコト能ハサルトキハ

第二回拂渡月日ヲ豫告シ更ニ其ノ豫告日ニ於テ第二回ノ居宅拂ヲ爲ス

第六十六條 郵便爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ郵便爲替金居宅拂取扱區域外ニ轉居シタルト

キハ郵便爲替證書ノ效用ヲ失ヒタルトキ又ハ第二回居宅拂ノ場合ニ於テ前條ノ事故ニ依リ

爲替金ノ拂渡ヲ了スルコト能ハサルトキハ爲替金居宅拂ノ請求ハ其ノ效ヲ失フ

第六十七條 郵便爲替ノ受取人ハ自己又ハ差出人ニ於テ爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタルトキト

雖拂渡郵便局所ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ受クルコトヲ妨ケス

第六十八條 本章ノ規定ハ郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第六十九條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年(九月)農商務省告示第二十號郵便爲替細則同二十年(六月)逓信省告示第百十七號郵便小爲替規定同三十二年(十一月)逓信省令第五十一號郵便爲替金居宅拂規則ハ之ヲ廢止ス

第三款 郵便爲替ニ關スル法規

第一 郵便爲替證書線引讓渡規則

郵便爲替證書線引讓渡規則(明治三十四年三月 逓信省令第十三號)

第一條 郵便爲替證書ハ其裏面ニ二條ノ平行線ヲ畫シ銀行ニ對シ任意ニ之ヲ讓渡スルコトヲ

得但シ特ニ銀行ヲ指定セントスルトキハ其線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ

讓受銀行ハ前項郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定ナキモノハ引渡ニ依リ又其指定アルモノハ

其指定ヲ抹消シ前項ノ規定ニ依リ他ノ銀行ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ銀行ノ指定ナキモ

ノヲ特ニ銀行ヲ指定シテ讓渡セントスルトキハ證書裏面ノ平行線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載ス

ヘシ

第二條 線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定アルモノハ其指定銀行ノ又指定ナキ

モノハ一般銀行ノ請求ニ應シ之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第三條 線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ銀行ヨリ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ郵便爲

替規則第二十條ノ手續ヲ爲サス之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第四條 郵便局所ハ交換所組合銀行ノ請求アルトキハ交換所所在地ニ限リ特ニ定ムル交換方

法ニ依リ線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ之カ拂渡ヲ爲スコトアルヘシ

第二 通常郵便爲替證書ノ金額ヲ規定ノ

制限額以上ニ高ムル場合ノ件

遞信省令第六號(明治三十六年二月、同三十八年同省令第五十九號ヲ以テ改正)

定期又ハ無定期ニ多額ノ金員ヲ郵便爲替ニ依リ送付セシトスル者豫メ一等郵便局長又ハ在外郵便局長ノ認可ヲ受タルトキハ通常爲替證書一枚ノ金額ヲ規定ノ制限額以上ニ高ムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル制限額以上ノ爲替金ニ對スル爲替料ハ一般規定ノ爲替料ノ割合ニ依ル前項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ送金ノ目的、認可ヲ受ケントスル證書一枚ノ最高金額及振出郵便局所名等ヲ記載シタル認可申請書ヲ當該振出局所經由所轄一等郵便局長又ハ在外郵便局長ニ差出スヘシ  
高額爲替振出ノ認可ヲ受ケタル者一箇年間其振出ヲ爲ササルトキハ認可ノ效力ヲ失フモノトス

第三 清韓國ニ設置ノ郵便局所間又ハ同局所ト

其以外ノ各局所トノ間ニ於ケル通常郵便

爲替ノ最高制限金額ノ件

遞信省令第四號(明治三十六年二月)

清國又ハ韓國ニ設置シタル郵便局所相互間又ハ同局所ト其以外ノ各郵便局所トノ間ニ取組ム通常爲替ハ其證書一枚ノ金額制限ヲ百圓トス

第四 在清國本邦郵便局所ニ於テ振出ス郵便

爲替ノ最高額制限ノ件

遞信省令第十五號(明治三十四年三月)

在清國北京、天津芝罘郵便局並ニ其出張所ニ於テ振出ヲ取扱フ郵便爲替ノ最高制限ハ當分ノ内一人一日金百圓トス

第五 牛莊郵便局振出ノ通常郵便爲替ノ金額

ニ關スル件

遞信省令第六十二號(明治三十七年九月)

在清國牛莊郵便局ニ於テ振出ス通常爲替ハ當分ノ内其證書一枚ノ金額ニ制限ヲ附セス



扱所爲替料金ノ件

宇品山海關間往復ノ通信船内ニ設置セル郵便取扱所ニ於テ清國沿岸碇泊中又ハ航行中振出又ハ拂渡ヲ爲スヘキ通常爲替及小爲替ノ料金ハ在清國各局所相互間又ハ同局所ト其ノ以外ノ各局所トノ間ニ取組ム通常爲替及小爲替ノ料金ト同一トス

第九 各郵便受取所及在清國郵便局所ハ電信爲替ノ取扱ヲ爲サル件

遞信省令告示第三百五十二號(明治三十三年九月)

左ノ郵便局所ニ於テハ郵便爲替規則ニ依ル電信爲替ノ取扱ヲ爲サス

郵便受取所

清國ニ設置シタル郵便局所

第四節 郵便貯金

第一款 郵便貯金法

郵便貯金法(明治三十八年二月法律第二十三號)

第一條 郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

- 一 一度ノ預入額 拾錢以上
- 二 貯金總額 千圓以下

預入金ノ端數ハ厘位ヲ限トス

第四條 左ニ掲クル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セス

- 一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金
- 二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金
- 三 産業組合ノ預入金
- 四 振替計算ノ爲ニスル預入金

第五條 郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ多一人一冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲シタル者アルトキハ最初ノ通帳ノ日附同一ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ記入シタル貯金ノ外利子ヲ付セス



前項ニ依リ利子ヲ付スヘカラサル貯金ニ付既ニ拂戻シタル利子アルトキハ現ニ存在スル貯金ヨリ之ヲ控除シ又ハ別ニ之ヲ追徴ス

第六條 郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於テ郵便貯金預ケ人之ヲ其ノ制限以内ニ減額セサルトキハ郵便官署ハ其ノ制限以内ニ減額スルニ必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入シ之ヲ保管スヘシ

第七條 郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得

第八條 郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十三條 成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管ニ係ル證券ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂出又ハ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條 郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遅延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十五條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞偽ヲ調査スル爲メ預ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳ヲ檢閲スルコトヲ得

第十七條 郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條 十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入又ハ檢閲ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十日以内ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ其ノ郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有効期間滿了之日ヨリ三年間再度證書交付又ハ拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付テハ其ノ期間ハ第一項ノ期

間ニ算入セス

附則

第十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金條例ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

本法施行前又ハ本法施行後一年內ニ第十九條第一項ノ期間ヲ經過シ又ハ經過スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其ノ催告ノ日ヨリ一年內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ公告ス尙一年內ニ之ニ應スル者ヲキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス  
本法施行前發行シタル拂戻證書ノ有効期間ハ本法施行ノ日ヨリ六十日トス

第二款 郵便貯金規則

郵便貯金規則(明治三十八年五月逓信省令第三十六號)  
(同三十九年同省令第十五號ヲ以テ改正)

第一章 總則

第一節 通則

第一條 郵便貯金ハ特ニ告示シタル場合ヲ除クノ外何レノ郵便局所ニ於テモ之ヲ取扱フ

第二條 左ノ貯金預ケ人ハ貯金ノ目的ヲ異ニスル場合ニ限リ二冊以上ノ通帳ヲ所持スルコトヲ得

- 一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體
- 二 規約貯金ノ預ケ人
- 三 据置貯金ノ預ケ人
- 四 共同貯金ノ總代人

第三條 貯金通帳ニハ預ケ人ニ於テ其ノ表紙ノ餘白ニ貯金ノ目的ヲ表示スヘキ簡單ナル文詞  
徽號ヲ印刷又ハ筆書スルコトヲ得

第四條 郵便貯金ノ受入及拂出ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ貯金預ケ人原簿ニ登記ス

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預入金ヲ原簿ニ登記シタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

貯金預ケ人其ノ貯入ヲ爲シタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ前項ノ通知書到達セサルトキ又

銀行會社法令大金 第七編 第一章 第四節 第一款 郵便貯金法

ハ通知書到達スルモ預入金額、預入年月日等ニ相違アルトキハ速ニ其ノ旨ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ申告スヘシ

第五條 一人ノ郵便貯金總額制限ヲ超過シタルトキハ郵便官署ハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

前項ノ通知ヲ發シタル後三十日以内ニ預ケ人ヨリ減額ノ請求ナキトキハ郵便官署ハ郵便貯金法第六條ノ手續ヲ爲ス

第六條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ニ於テ本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ其ノ名稱ヲ記載シ其ノ印ヲ押捺スルカ又ハ其ノ代表者管理者ニ於テ相當肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第七條 代人ニ於テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作製スルコトヲ得

第八條 貯金預ケ人ハ一名ヲ限り加印者ヲ設ケルコトヲ得

加印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ加印者モ亦當該書類ニ其ノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第九條 貯金預ケ人加印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及新舊加印者連署シ且新加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人其ノ加印者ヲ廢シタルトキハ前項ノ例ニ準シ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十條 貯金預ケ人預入開始後加印者ヲ設ケタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及加印者連署シ且加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十一條 印章ヲ所持セサル者貯金預ケ人トナルトキハ代印者一名ヲ設クヘシ  
代印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ本人ノ氏名ヲ記シ尙代印者記名調印スヘシ

第十二條 貯金預ケ人代印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ新舊代印者連署シ且新代印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十三條 貯金預ケ人代印者ヲ廢シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及代印者連署シ且預ケ人ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十四條 貯金預ケ人印章ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且通帳ヲ呈示スヘシ但シ通帳ヲ呈示シ能ハサル場合ニ於テ正當本人タルコトヲ證明シ得サルトキハ郵便局所ノ相當ト認ムル保證人ヲ立ツヘシ

代印者又ハ加印者印章ヲ變更シタルトキハ前項ノ例ニ依リ其ノ届出ヲ爲スヘシ但シ加印者印章變更ノ場合ニ於テハ其ノ届書ニ預ケ人ノ連署ヲ要ス

第十五條 貯金預ケ人及其ノ他ノ關係人ニ於テ其ノ氏名ヲ改メ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ其ノ届書ニ記名調印シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第十六條 貯金預ケ人其ノ住所ヲ郵便爲替貯金管理所所持持區域内ヨリ同支所所持持區域内ニ移轉シ又ハ同支所所持持區域内ヨリ郵便爲替貯金管理所若ハ他ノ支所所持持區域内ニ移轉シタルトキハ預ケ人原簿ノ移替ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ヲ當該爲替貯金管理所又ハ同支所ニ移替シ且通帳記號番號ヲ更訂シタル上通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第十七條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ノ代表者、管理者ニ異動アリタルトキハ其ノ届書ニ新舊代表者、管理者連署シ且新代表者、新管理者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十八條 特別即時拂ノ取扱ヲ受クヘキ貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲ストキハ當該特別取扱局所ニ對シテモ亦其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十九條 貯金預ケ人第九條以下ノ届出ヲ爲シタルトキハ同時ニ通帳中變更ニ係ル事項ヲ訂正スヘシ

第二十條 貯金事務ニ關シ郵便官署ニ提出スル書類ニハ當該通帳ノ記號番號ヲ附記スヘシ

第二十一條 郵便官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ貯金預ケ人ノ請求ニ依リ貯金ニ關スル特別ノ取扱ヲ爲ス場合ト雖其ノ承認ヲ取消シ又ハ其ノ取扱局所ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十二條 天災其ノ他非常ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル郵便局所ニ限リ本規則ノ手續ニ依ラス貯金ノ拂戻其ノ他ノ取扱ヲ爲ス  
前項非常取扱ニ關スル必要ナル事項ハ當該郵便局所ニ之ヲ揭示ス

第二節 貯金利子

第二十三條 郵便貯金ハ其ノ預入ノ翌月ヨリ其ノ拂戻證書發行ノ前月マテ又拂戻證書ヲ發行セサルモノハ拂戻金拂渡ノ前月マテ之ニ利子ヲ附ス但シ一口ノ預入金中拾錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十四條 貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ元金ニ加ヘ其ノ總額ニ對シ四月ヨ

リ更ニ利子ヲ附ス但シ其ノ拾錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十五條 貯金預ケ人ハ通帳ニ元加利子ノ記入ヲ受クル爲毎年一回通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第二十六條 前條ノ通帳ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ元加利子ノ記入ヲ爲シ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 通帳檢閲

第二十七條 貯金預ケ人ハ何時ニテモ所持ノ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ノ檢閲ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳ノ檢閲ヲ爲サムトスルトキハ貯金預ケ人ニ其ノ旨ヲ通告ス

貯金預ケ人前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ通告書ニ指示スル方法ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付スヘシ

第二十九條 貯金預ケ人前二條ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付シタルトキハ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第三十條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳ヲ檢閲シタルトキハ之ニ檢閲濟ノ證印

ヲ爲ス

前項檢閲濟ノ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第四節 再度通帳

第三十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ再度通帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 通帳ヲ亡失シタルトキ

二 通帳毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 通帳餘白ナキニ至リタルトキ

前項第一號及第二號ニ依ル再度通帳ノ請求ニ對シテハ通帳一冊ニ付料金五錢ヲ徴收ス

第三十二條 貯金預ケ人通帳ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ再度請求書ヲ調製シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ通帳アルモノハ之ヲ添へ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳餘白ナキニ至リタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第三十三條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ預

ケ人原簿ニ依リ再度通帳ヲ發行シ通帳ハ郵便局所ニ於テ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ交付ス

第三十四條 再度通帳ヲ發行シタルトキハ原通帳ハ無効トス

第五節 讓渡及相續

第三十五條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ左ノ場合ニ限り之ヲ讓渡スコトヲ得

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ニ讓渡ス場合

二 親族ニ讓渡ス場合

三 遺言ニ依リ讓渡ス場合

第三十六條 貯金讓受人ハ速ニ貯金ノ名義書換ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ讓受人カ既ニ自己名義ノ通帳ヲ所持スルトキハ其ノ通帳ニ讓受ニ係ル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十七條 貯金讓受人貯金ノ名義書換ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且讓受人ノ印鑑及左ノ書類ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

一 法人若ハ團體ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ營利ヲ目的トセサルコトヲ認ムヘキ相當證明書

二 親族ニ於テ讓受ケタルモノナルトキハ其ノ續柄ヲ認ムヘキ戸籍ノ謄本若ハ抄本

三 遺言ニ依リ讓受ケタルモノナルトキハ相當ノ證明アル遺言書謄本

第三十八條 貯金讓受人貯金ノ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且自己名義ノ通帳及讓受ニ係ル通帳並ニ前條各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第三十九條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ前二條ノ請求ニ依リ貯金ノ名義書換又ハ轉記ヲ了シタルトキハ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第四十條 貯金ノ讓受人反對ノ申出ヲ爲ササルトキハ當該貯金ニ屬スル證券モ亦讓渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十一條 死亡ニ因ル家督相續人又ハ遺產相續人、被相續人ノ貯金ノ名義書換若ハ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ戸籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添ヘ名義書換ノ場合ハ尙印鑑ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ但シ郵便局所ニ於テ必要ト認ムルトキハ相當保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

死亡以外ノ原因ニ依ル家督相續人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第三十七條及第三十八條ノ例ニ依ルヘシ

第三十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第一章 貯金預入

第一節 通常預入

第四十二條 新ニ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金預入申込書ヲ調製シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ貯金預ケ人カ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ナルトキハ貯金預入申込書ニ相當證明書ヲ添付スヘシ

第四十三條 郵便局所ニ於テ前條ノ申込書及現金ヲ受領シタルトキハ預ケ人名義ノ通帳ヲ調製シ預入金ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ交付ス

貯金預ケ人通帳ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ印鑑欄ニ預入申込書ニ使用シタル印章ヲ押捺スヘシ

第四十四條 貯金預ケ人再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ現金ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第四十五條 貯金預ケ人通帳ヲ郵便官署ニ提出中貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ郵便局所ニ通帳受領證ヲ呈示シタル上現金ヲ差出シ其ノ假預リ證ヲ受取ルヘシ貯金預ケ人通帳ノ返付ヲ受ケタルトキハ預入ヲ爲シタル郵便局所ニ前項ノ假預リ證ヲ差出シ通帳ニ預入金ノ轉記ヲ受クヘシ

第四十六條 郵便局所ニ於テ貯金ヲ受入レタルトキハ通帳ニ預入金額、預入年月日其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ主務者調印シ且日附印ヲ押捺シテ之ヲ證明ス

第二節 郵便切手預入

第四十七條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル郵便切手ハ左ノ三種トス

- 一 五厘郵便切手
- 二 壹錢郵便切手
- 三 貳錢郵便切手

第四十八條 郵便切手ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便切手貯金整紙ニ印刷シタル郵便切手印面金額ト同一種類ノ郵便切手ヲ整紙相當欄全部ニ貼付シ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ

前項ノ整紙ニ印刷シタル切手印面金額ハ之ヲ預入金ニ加算ス

第四十九條 郵便切手貯金臺紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項臺紙ノ紙質寸法及必要ナル欄割ハ郵便官署發行ノモノト同様ナルコトヲ要ス但シ郵便切手印面ヲ印刷スルコトヲ得ス

第五十條 郵便切手ニ依ル貯金ノ預入ハ一人一箇月壹圓ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者アルトキハ其ノ制限超過額ヲ無効トシ其ノ消印シタル郵便切手ニ對シテハ之カ代償ヲ爲サス

第三節 證券預入

第五十一條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

前項ノ證券ニシテ割増金附ノモノナルトキハ其ノ割増金モ共ニ預入スルコトヲ得

郵便貯金ニ預入スル證券ニシテ所得稅ヲ課セラルルモノハ其ノ所得稅ヲ控除シタル殘額ヲ以テ貯金預金額トス

第五十二條 證券ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ證券ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ但シ證券ニ支拂期ノ明記ナキモノハ預ケ人ニ於テ其ノ支拂期ノ開始セルモノナルコトヲ證明スヘシ

第四節 局所外預入

第五十三條 一定ノ場所及日時ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲ス者多數アルトキハ郵便局所ハ其ノ預

ケ人ノ請求ニ依リ吏員ヲ派出シ之カ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第五十四條 郵便局ノ郵便區市外ニ在ル貯金預ケ人ハ當該郵便局ノ郵便集配人ニ依リ預入ヲ爲スコトヲ得但シ證券ニ依ル預入ハ此ノ限ニ在ラス

郵便集配人ニ於テ貯金ノ取扱ヲ爲スヘキ場所及日時ハ所轄郵便局長ノ掲ホスル所ニ依ル

第五十五條 郵便局所ノ派出吏員又ハ郵便集配人ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ指定ノ場所及日時ニ於テ貯金預入申込書又ハ通帳ニ預入金ヲ添ヘ之ヲ派出吏員又ハ郵便集配人ニ交付シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

同一ノ場所及日時ニ於テ預入ヲ爲サムトスル者多數アルトキハ取纏メ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ取纏人ニ於テ各預ケ人ノ氏名金額等ノ内譯書ヲ調製シ之ヲ付スヘシ

第五十六條 前條ニ依リ取扱ヲ爲シタル貯金ニ對シテハ所轄郵便局所ニ於テ相當手續ヲ爲シタル上通帳ハ預入ノ日ヨリ起算シ三日以内前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付ス但シ取纏メ預人ヲ爲シタルトキハ之ヲ其ノ取纏人ニ交付ス

第五十七條 貯金預ケ人前條ノ期限内ニ通帳ノ交付ヲ受ケサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ當該郵便



局長又ハ所轄一等郵便局長ニ申告スヘシ

### 第三章 貯金拂戻

#### 第一節 通則

第五十八條 貯金拂戻證書ノ有効時間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ六十日トス

第五十九條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ五拾錢以上ノ貯金ヲ殘シ置クヘシ

第六十條 貯金預ケ人ハ貯金ノ一部拂戻ノ場合ニ於テハ拾錢未満ノ端數及未タ元金ニ加ヘサル利子ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

#### 第二節 通常拂戻

第六十一條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第六十二條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ但シ請求書ニハ拂戻金額ヲ記載セス其ノ餘白ニ全拂ノ文字ヲ附記スヘシ

第六十三條 前二條ノ貯金拂戻請求ニ對シテハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ其ノ請求書ヲ預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ印鑑其ノ他ニ相違ナキヲ認メタル上拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送達シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第六十四條 貯金拂戻請求人拂戻證書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其ノ證書ニ受領證印ヲ爲シ之ニ通帳又ハ通帳受領證ヲ添ヘ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ  
拂渡郵便局所ハ拂戻證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ拂戻金額、通帳記號番號、預ケ人ノ氏名及印鑑ノ符合スルヲ認メタル上拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ拂渡郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 拂戻證書違式ノトキ
  - 二 拂戻請求書違式ノトキ
  - 三 拂戻請求書未達ノトキ
  - 四 拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサルトキ
  - 五 拂渡資金缺乏ノトキ
- 拂戻金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ當該郵便局所ニ於テ拂戻證書ノ裏面ニ其ノ事由及豫定日數

ヲ記載證印シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十六條 郵便局所ハ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサル場合ニ於テハ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ又拂渡資金缺乏ノ場合ニ於テハ其ノ拂渡シ得ル金額ヲ限度トシ拂戻請求人ノ請求ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ爲ス

第六十七條 貯金拂戻請求人前條ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ受クルトキハ其ノ受領證ヲ差出シ且拂戻證書ヲ呈示シテ之ニ假拂金ノ記入ヲ受クヘシ但シ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ拂戻證書ニ記載シタル金額ノ拂渡ヲ受クルモノナルトキハ拂戻證書ニ受領證印スヘシ

第六十八條 郵便局所ハ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ニ於テ其ノ事故判明シ又ハ資金充實シテ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキ若ハ停延期間ノ延長ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第六十九條 郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル爲經過シタル日數ハ拂戻證書ノ有效期間ニ算入セス

第七十條 貯金預ケ人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ通帳ノ記號番號、拂戻金額、原拂渡郵便局所名及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名等ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便

局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ノ變更ヲ承認シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第七十一條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便官署ニ再度拂戻證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 拂戻證書ヲ亡失シタルトキ

二 拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 拂戻證書有効期間ヲ經過シタルトキ

再度拂戻證書ノ請求ニ對シテハ證書一枚ニ付料金參錢ヲ徴收ス

第七十二條 貯金預ケ人再度拂戻證書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳記號番號、拂戻金額並ニ請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ記名調印シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ原證書アルモノハ之ヲ添へ郵便局所ニ差出スヘシ

第七十三條 郵便官署ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ原證書ニ對シ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再度拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第七十四條 再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第七十五條 貯金預ケ人拂戻證書ノ交付ヲ受ケタル後現金受領ノ必要ナキニ至リタルトキハ

其ノ拂戻金ノ戻入ヲ請求スルコトヲ得但シ貯金全部拂戻ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス  
 拂戻金戻入ノ請求アリタルトキハ其ノ請求ノ日ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲シタルモノト看做ス  
 第七十六條 貯金預ケ人拂戻金ノ戻入ヲ請求セントスルトキハ拂戻證書ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記  
 載シ記名調印ノ上之ニ通帳ヲ添へ郵便局所ニ差出スヘシ但シ證書ヲ亡失シタルモノ又ハ毀  
 損汚斑シテ不判明トナリタルモノハ通帳記號番號、拂戻金額、拂渡郵便局所名等ヲ記載シタ  
 ル戻入請求書ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ニ拂出及受入ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ  
 返付ス

第三節 特殊拂戻

第七十七條 貯金預ケ人ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ檢閱濟ノ證印ヲ爲シタル貯  
 金現在金額ニ付テハ何レノ郵便局所ニ於テモ一日參拾圓以内、一箇月總額百圓迄ヲ限り即  
 時拂ヲ請求スルコトヲ得通帳ニ預入金ヲ記入シタル郵便局所ニ對シ其ノ記入金額ニ付拂戻  
 ヲ請求スル場合亦同シ

第七十八條 貯金預ケ人貯金ノ即時拂ヲ請求セントスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙  
 ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ受領證ニ押捺シタル印影ト通帳ニ押捺シアル  
 印鑑ト對照シ相違ナキヲ認メタル上請求人ニ拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ  
 通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第七十九條 貯金預ケ人貯金全部ノ即時拂ヲ請求シタル場合ニ於テ元金ニ組入レタルト否ト  
 ヲ問ハス通帳ニ記入セラレサル利子アルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ニ  
 對スル拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第八十條 貯金預ケ人郵便局所ニ於テ豫メ特別即時取扱ノ承認ヲ受ケタルトキハ第七十七條ノ  
 場合ニ於テ金額ニ制限ナク當該郵便局所ニ貯金ノ即時拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十一條 貯金預ケ人最初預入ノ際特別即時取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ貯金預入申  
 込書ト共ニ其ノ副本ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

既ニ通帳ヲ所持スル者特別即時取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ郵便局所ニ通帳ヲ呈示  
 シ且貯金預入申込書副本ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ特別即時取扱ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス  
 第八十二條 貯金預ケ人ハ別ニ告示スル郵便局所ニ於テ其ノ受持郵便爲替金管理所又ハ同支  
 所ニ屬スル貯金ノ全部又ハ一部ノ局待拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十三條 貯金預ケ人局待拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領書ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於ケル預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ相違ナキヲ認メタル上之カ拂渡ヲ爲ス

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第八十四條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十五條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スル證券ノ價格ハ郵便爲替貯金管理所ニ其ノ請求書ノ到著シタル日ヨリ起算シ第三日目ニ於ケル東京ノ相場ニ依ル

第八十六條 證券購入保管又ハ賣却ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十七條 郵便官署ニ於テ購入スル證券ノ代金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ拂出シ保管ニ係ル證券ノ利子、償還金及賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入ル

貯金ニ組入レタル證券利子ハ預ケ人ヨリ元加利子ノ記入又ハ檢閱ヲ受クル爲通帳ヲ提出シ

タルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス

第八十八條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求スルトキ若ハ貯金讓渡ノ場合ニ於テ貯金ニ關スル證券ノ讓渡ヲ爲ササルモノナルトキハ同時ニ郵便官署ニ於テ保管ニ係ル證券ノ交付ヲ請求スヘシ

第八十九條 貯金預ケ人ハ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ郵便官署ニ請求スルコトヲ得前項ニ依ル保管證券ハ貯金ヲ以テ購入シタルモノト看做シ之ヲ取扱フ

第九十條 本章ノ規定ハ第五條第二項ニ依ル國債證券ノ購入保管ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 證券購入及保管

第九十一條 貯金預ケ人證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券購入請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十二條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ證券ヲ購入シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ郵便局所ニ貯金通帳ヲ差出シ之ニ證券代金ニ對スル拂出金ノ記入ヲ受ケ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ受取り再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出シ之ニ證券ノ種類記號符號額面金高等

ノ記入ヲ受クヘシ

第九十三條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十四條 貯金預ケ人第八十九條ニ依ル證券ノ保管ヲ請求セントスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券保管請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ證券ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ貯金通帳ヲ呈示ス再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ請求人ニ證券假受領證ヲ交付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ニ證券ノ種類記號番號額面金高等ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第九十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ證券ヲ受取リタルトキハ證券保管原簿ニ登記シ初度ノ請求ニ係ルモノハ證券保管通帳ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送附シ再度以後ノ請求ニ係ルモノハ原簿登記濟ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十六條 郵便爲替金管理所ニ於テ證券ノ償還金ヲ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

貯金預ケ人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出及償還金受入ノ記入ヲ受クヘシ

第三節 證券交付及賣却

第九十七條 貯金預ケ人證券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券交付請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第九十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求人指定ノ郵便局所ニ證券及交付請求書ヲ送付シ且其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス  
請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出ノ記入ヲ受ケ且交付請求書ニ受領證印シテ證券ヲ受取ルヘシ

第九十九條 貯金預ケ人證券ノ賣却ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券賣却請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便爲替貯金管理所若ハ同支所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ證券賣却代金ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第百條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ證券ノ賣却代金ヲ請求人ノ貯金ニ組入レタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及時金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ通帳ニ證券拂出及賣却代金受入ノ記入ヲ受クヘシ

第百一條 前條ノ場合ニ於テ第九十九條第二項ニ依リ證券賣却代金ノ拂渡ヲ要スルモノナルトキハ第七十八條ノ手續ニ準シ之カ拂渡ヲ爲ス

第五章 特別貯金

第一節 規約貯金

第百二條 組合規約ニ依リ拂戻ニ制限ヲ付シテ預入シタル貯金ハ之ヲ規約貯金トス

第百三條 規約貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ組合代表者ニ於テ組合ノ名稱、所在地並ニ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ記載シタル請求書ニ通テ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ代表者ニ通知ス

第百四條 組合員新ニ規約貯金ノ預入ヲ爲ス場合ニ於テハ貯金預入申込書ニ組合ノ名稱及規約貯金ノ旨ヲ附記シ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第百五條 規約貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ拂戻制限ノ旨ヲ附記ス

前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ規約貯金ト看做ス

第百六條 通常貯金通帳ハ之ヲ規約貯金ニ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ通帳ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ之ニ拂戻制限ニ關スル徵號ノ附記ヲ受クヘシ

第百七條 組合員他ノ規約組合ニ轉シタルトキハ舊組合ニ於テ使用セシ通帳ヲ新組合ニ於テ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ新組合ニ對シ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第百八條 規約貯金預ケ人ハ其ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ヲ除クノ外他ノ郵便局所ニ於テ貯金 特殊拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ局待拂ハ此ノ限ニ在ラス

第百九條 規約貯金ノ拂戻ヲ請求セントスル者ハ拂戻承認ニ關スル證明ヲ具シ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ證明カ豫メ組合代表者ヨリ提出ニ係ル證明方法ニ符合スルニ非サレハ之カ拂戻ヲ爲サス

第百十條 組合ニ於テ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ變更シタルトキハ組合代表者ニ於テ其ノ届書ニ通テ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第百一十一條 組合ニ於テ拂戻制限ニ關スル規約ヲ解除シ若ハ組合ヲ解散スルトキハ代表者ニ於テ直ニ其ノ旨ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ届出ツヘシ  
前項ノ場合ニ於テ各組合員ハ通帳ヲ當該承認局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル徽號ノ取消ヲ受クヘシ

第百一十二條 規約貯金預ケ人組合ヲ脱シタルトキハ通帳ニ組合脱退承認ニ關スル證明書ヲ添ヘ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル徽號ノ取消ヲ受クヘシ  
第百一十三條 前二條ノ場合ニ於テ其ノ預ケ人他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ規約貯金ノ轉記ヲ受クヘシ

第二節 据置貯金

第百一十四條 一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入レタル貯金ハ之ヲ据置貯金トス  
据置貯金ノ期間ハ最初預入ノ日ヨリ起算シ三箇年乃至十箇年ノ年限内ニ於テ貯金預ケ人任意之ヲ指定スヘシ

第百一十五條 新ニ据置貯金ノ預入ヲ爲サムトスルモノハ貯金預入申込書ニ其ノ据置期間ヲ明記スヘシ

第百一十六條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルトキハ其ノ請求書ニ通帳ノ記號

番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ  
前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第百一十七條 据置貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ据置貯金ノ旨ヲ附記ス  
前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ据置貯金ト看做ス

第百一十八條 据置貯金ハ据置期間滿了ノ後ニ非ラサレハ其ノ拂戻ヲ爲サス其ノ貯金ヲ以テ購入シタル證券ノ交付ニ付テモ亦同シ

第百一十九條 据置貯金ノ預ケ人ハ据置期間滿了ノ際ニ於テ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第百十六條ノ例ニ依リ郵便局所ノ承認ヲ受クヘシ

第百二十條 据置貯金ノ預ケ人其ノ期間滿了ノ際他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ据置貯金ノ轉記ヲ受クヘシ

第三節 共同貯金

第百二十一條 貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者共同シ總代人ノ名義ヲ以テ預入スル貯金ハ之ヲ共同貯金トス

第百二十二條 共同貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ總代人ニ於テ貯金預入申込書ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ共同貯金ノ取扱ヲ承認スルトキハ總代人ニ通帳及其ノ通帳ノ記號番號ヲ記入シタル貯金預入票用紙ヲ交付ス

第二百二十三條 總代人ハ隨時貯金預入票用紙ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳記號番號及所要數量ヲ記載シタル請求書ヲ通帳ノ交付ヲ受ケタル郵便局所ニ差出スヘシ  
第二百二十四條 貯金預入票用紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項ノ用紙ハ郵便局所發行ノモノト同様ナルコトヲ要ス但シ其ノ裏面ニハ共同貯金ニ關スル事項ニシテ通信文ノ性質ヲ有セサルモノニ限り之ヲ印刷スルコトヲ得

第二百二十五條 總代人ハ貯金預入票用紙ノ相當欄ニ自己ノ住所氏名ヲ記入シ私製ノモノニアリテハ尙通帳記號番號ヲ記入シ之ヲ各共同者ニ配付スヘシ

第二百二十六條 總代人ノ貯金預入票用紙ヲ各共同者ニ配付スル爲其ノ送達ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ用紙ニ帶封ヲ施シ其ノ表面ニ配付ヲ要スル共同者ノ住所氏名ヲ記載シ郵便局所ニ差出スヘシ

第二百二十七條 共同貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ預入票用紙ニ相當事項ヲ記載シ預入金ト共ニ郵便局所ニ差出シ預入金受領證ヲ受取ルヘシ  
多數ノ者同時ニ前項ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ取纏メ一枚ノ預入票ヲ以テ其ノ預入

ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取纏人ニ於テ預入票ニ相當事項ヲ記載シ且其ノ裏面ニ各預入者ノ氏名及金高ヲ附記シ又ハ別ニ内譯書ヲ添ヘ差出スヘシ

第二百二十八條 前條ノ預入金ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ其ノ總代人名義ノ共同貯金トシテ預ケ人原簿ニ登記シ預入票ヲ總代人ニ送付ス

第二百二十九條 總代人前條預入票ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預入金ノ記入ヲ受クヘシ但シ同時ニ多數ノ記入ヲ要スルモノニシテ其ノ預入月ノ同一ナルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ取纏メ通帳ニ記入ス

第二百三十條 貯金預ケ人ハ自己名義ノ貯金ヲ共同貯金ニ組替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預入票ニ組替ノ旨ヲ附記シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

前項貯金ノ組替ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ貯金ノ一部組替ヲ要スルモノナルトキハ其ノ組替金額ヲ記入シ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第二百三十一條 共同貯金ノ組合ヲ解除シタルトキハ總代人ニ於テ其ノ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

#### 第四節 海外貯金

銀行會社法令大綱 第七編 第一章 第四節 第二款 郵便貯金法



第三百二十二條 我郵便局所ノ設置ナキ外國ニ在留スル本邦人郵便貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所、職業、氏名及初度預入金額ヲ記載シ且自己ノ印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ宛テ送付シ預入金ハ郵便爲替ニ依リ之ヲ同所ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第三百二十三條 前條ニ依リ預入ヲ爲シタル者再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ其ノ預入金ヲ郵便爲替ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第三百二十四條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前二條ニ依リ送付ヲ受ケタル爲替金ハ郵便貯金ニ振替受入レ之ヲ預ケ人原簿ニ登記ス

第三百二十五條 海外貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所、氏名及拂戻金高ヲ記載シ且印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第三百二十六條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ拂戻金ヲ郵便爲替ニ依リ之ヲ請求人ニ送付ス此ノ場合ニ於テハ爲替料ヲ請求人ノ貯金ヨリ控除ス

第三百二十七條 海外貯金預ケ人ハ第三百二十五條ノ例ニ準シ内國在住者ヲ指定シ之ニ貯金ノ拂

渡ヲ請求スルコトヲ得

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂戻證書ヲ發行シ之ヲ指定ノ受取人ニ送達ス

第三百二十八條 海外貯金預ケ人其ノ貯金ニ關シ各種ノ請求又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ請求書又ハ届書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第三百二十九條 海外貯金預ケ人歸國シタルトキハ速ニ通帳ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ通帳交付請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ヲ發行シ之ヲ郵便局所ニ送付シ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第三百四十條 請求人前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ受領證印シ又ハ別ニ通帳受領證ヲ調製シテ之ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ且正當預ケ人タルコトヲ證明シタル上通帳ノ交付ヲ受クヘシ

附 則

第四百十一條 本規則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便貯金條例施行細則、郵便切手貯金規則、證券郵便貯金規則、特別郵便貯金規則、規約貯金特別取扱規則、郵便集配人取集郵便貯金規則及明治三十七年（十二月）逓信省令第七十二號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四百四十二條 郵便貯金振替計算ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

### 第三款 郵便振替貯金規則

郵便振替貯金規則（明治三十九年一月逓信省令第三號）  
（同年二月同省令第七號ヲ以テ改正）

#### 第一章 總則

第一條 振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ハ之ヲ郵便振替貯金ト稱ス

第二條 郵便振替貯金ハ左ノ取扱ヲ爲スモノトス

- 一 加入者又ハ加入者以外ノ者ヨリ當該加入者ノ口座ニ對スル現金又ハ所定ノ證券ニ依ル拂込ヲ受入ル、コト
- 二 加入者ノ請求ニ依リ加入者口座相互間ニ於テ貯金ノ振替受拂ヲ爲スコト
- 三 加入者ノ請求ニ依リ加入者又ハ加入者以外ノ者ニ當該口座ノ貯金ヨリ現金ノ拂渡ヲ爲スコト

第三條 振替貯金ノ振替計算事務ハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ之ヲ取扱フ

第四條 振替貯金ニ對シテハ口座受入ノ翌月ヨリ口座拂出ノ前月マテ之ニ利子ヲ付ス但シ基本貯金及壹圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ計算セス

國庫ノ計算ニ屬スル官署ノ口座ニ對シテハ總テ利子ヲ付セス

第五條 加入者ノ口座ニ對シ受人又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ各一口ニ付料金貳錢ヲ當該加入者ノ口座ヨリ差引徴收ス但シ元加利子ノ受入、料金及用紙代金ノ拂出ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第六條 加入者ノ請求ニ依リ現金拂渡ノ爲當該口座ノ貯金ヲ拂出ストキハ左ノ割合ニ依ル料金ヲ其ノ口座ヨリ差引徴收ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ料金ハ之ヲ徴收セス

- 十圓迄 五 錢
- 五十圓迄 拾 錢
- 百圓迄 拾五 錢
- 五百圓迄 參拾 錢
- 千圓迄 五拾 錢

第七條 國庫ノ計算ニ屬スル官署ノ口座ニ對シテハ前二條ノ料金ヲ徴收セス

第八條 郵便貯金規則第六條第七條第十五條第十七條第二十四條第四十一條ノ規定ハ之ヲ振替貯金ニ準用ス

第二章 口座加入及脱退

第九條 振替貯金ノ口座ニ加入セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル加入請求書ヲ調製シ之ニ基本預金貳拾圓ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ基本預金ニ對スル受領證ヲ受取ルヘシ但シ官公署ヨリ加入請求ノ場合ニ於テハ基本預金ノ拂込ヲ要セス

- 一 加入者ノ住所氏名
- 二 加入者ノ職業
- 三 拂込書及拂出書用紙ノ所要數量

前項拂込書及拂出書用紙ノ代金ハ加入請求書ニ郵便切手ヲ貼付シ之ヲ納付スヘシ

第十條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ請求人ニ對シ其ノ口座番號ヲ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス

請求人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ相當事項ヲ記載シ且振替貯金ニ關シ使用スヘキ印章ヲ鮮明ニ押捺シ免料書留郵便ニ依リ速ニ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第十一條 加入者印章ヲ變更シタルトキハ印鑑票用紙ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ請求書ニ記名調印ノ上之ヲ郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙及最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ノ呈示又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

郵便爲替貯金管理所ヨリ印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ前條ノ例ニ依リ記載調印シ之ヲ同所ニ送付スヘシ

第十二條 加入者口座ヨリ脱退セムトスルトキハ適宜ノ用紙ヲ以テ脱退請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

加入者前項ノ請求ヲ爲シタル後ハ貯金ノ拂出ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ公示シ公示ノ日ヨリ少クモ一箇月ヲ經過シタル後ニ於テ脱退者ノ口座ヲ決算シ基本預金及貯金殘額ニ對シテハ振替貯金拂出證書ヲ調製シ之ヲ脱退者ニ送達ス此ノ場合ニ於テハ基本預金以外ノ貯金殘額ニ對シ第六條ノ割合ニ依ル料金ヲ其ノ貯金ヨリ差引徵收ス但シ拂出スヘキ金額千圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對シ五百圓迄毎ニ拾五錢ヲ加徴ス

前項ノ決算終了後當該口座ニ對シ拂込ミアリタルトキハ其ノ拂込人ニ返戻ス

第三章 拂込及拂出

第一節 通則

第十四條 振替貯金ノ口座ニ對スル拂込及拂出ハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ發行スル拂込書及拂出書用紙ヲ使用スヘシ

前項ノ用紙ハ加入者ノ請求ニ依リ豫メ郵便爲替貯金管理所ニ於テ其ノ相當欄ニ加入者ノ住所氏名及口座番號ヲ印刷シ別ニ告示スル價格ヲ以テ之ヲ賣捌クモノトス

前項ノ用紙代金ハ第九條ノ場合ヲ除クノ外當該加入者ノ口座ヨリ差引徵收ス

第十五條 拂込書及拂出書ニハ其ノ相當欄ニ拂込人及拂出人ニ於テ相手加入者ニ對スル通信文ヲ記載スルコトヲ得但シ現金ノ拂渡ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 拂込書及拂出書ニ表示スル金高ハ其ノ字體ヲ正確ニ記載シ一二三十ノ數字ハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウヘシ

第十七條 拂込書及拂出書ニシテ前條ノ規定ニ違反シタルモノノ毀損汚斑ノ爲不判明トナリタルモノ又ハ其ノ記載事項ヲ塗抹改竄シタル痕跡アルモノハ郵便官署ニ於テ之ヲ受理セス但シ金高及日附ヲ除クノ外他ノ記載事項ノ誤記ニ對シ當該拂込人又ハ拂出人ニ於テ證明印ヲ捺シテ之ヲ訂正シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ加入者ノ口座ニ對シ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ受拂高及現在高ヲ表示スル受拂通知票ヲ調製シ即日之ヲ當該加入者ニ發送ス  
前項ノ貯金現在高ニハ基本預金ヲ算入セス

第二節 拂込

第十九條 振替貯金ノ口座ニ對シ現金ノ拂込ヲ爲サムトスル者ハ其ノ拂込ヲ受クヘキ加入者名義ノ拂込書用紙ニ依リ其ノ拂込票及拂込通知票ニ拂込金額、拂込人ノ住所氏名及拂込年月日ヲ記載シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ受領票ヲ受取ルヘシ

第二十條 郵便局所ニ於テ前條ノ拂込金ヲ受領シタルトキハ其ノ拂込書ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

郵便爲替貯金管理所ニ於テハ前項ノ拂込書ニ依リ當該加入者ノ口座ニ拂込金ヲ記入シ拂込通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ加入者ニ送付ス

第二十一條 郵便爲替貯金、郵便取立金取立濟通知書及中央金庫ニ於テ拂渡スヘキ仕拂命令券ハ第十九條ノ例ニ準シ之ヲ振替貯金ニ拂込ムコトヲ得但シ郵便取立金取立濟通知書ニ依リ拂込ム場合ハ取立金送達料ニ相當スル郵便切手ヲ其ノ通知書ニ貼付スヘシ

第二十二條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受クヘキ郵便局所ニ對シ豫メ自己ノ口座ニ其ノ取

立金ノ振替拂込ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込書用紙ノ相當數量ヲ當該局所ニ差出シ置クヘシ

前項ノ郵便局所ニ於テハ郵便取立金到着ノ都度加入者ノ請求ヲ待タス直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂込ノ手續ヲ爲シ其ノ取立金送達料ハ當該加入者ノ口座ヨリ差引徴收ス

第三節 拂出

第二十三條 加入者ハ郵便爲替貯金管理所ヨリ最近送付ニ係ル受拂通知票ニ表示セル貯金現在高ヲ超過セサル限度ニ於テ之カ拂出ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 加入者自己ノ貯金ヲ拂出シ之ヲ他ノ加入者ノ口座ニ振替ヘムトスルトキハ拂出書用紙ニ依リ其ノ拂出票及拂出通知票ニ拂出金額、振替拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番號及氏名等ヲ記載シ調印ノ上免料普通郵便ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第二十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ氏名印影ヲ印鑑票ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上當該口座ヨリ貯金拂出ノ手續ヲ爲シ更ニ指定加入者ノ口座ニ之ヲ受入レ拂出通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ拂込ミヲ受ケタル加入者ニ送付ス

第二十六條 加入者自己ノ貯金ヲ拂出シ自ラ其ノ現金ヲ受領シ若ハ他人ニ之ヲ拂渡サムトス

ルトキハ拂出票及拂出通知票ニ拂出金額現金受領者ノ住所氏名及拂渡郵便局所名ヲ記載シ尙現金拂ノ文字ヲ附記シ調印ノ上免料普通郵便ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第二十七條 前條ノ現金拂出書一枚ノ金額ハ千圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ現金拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第二十五條ノ例ニ依リ口座拂出ノ手續ヲ爲シタル上振替貯金拂出證書ヲ調製シ之ヲ現金受取人ニ送達シ拂出通知票ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第二十九條 受取人前條拂出證書ニ對スル現金ノ拂渡ヲ受ケムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ記名調印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ拂出通知票ニ記載シタル事項ト符合スルヲ認メ現金ヲ交付ス

- 一 拂出人ノ住所氏名
- 二 受取人ノ住所氏名

第三十條 加入者ハ東京郵便局ヲ拂渡局ニ指定シ局待拂ノ拂出書ヲ振出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂出書ニ局待拂ノ文字ヲ附記スヘシ

前項ノ郵便局ニ於テハ拂出書ニ對シ相當調査ノ上受取人ニ即時現金ヲ交付ス

第三十一條 局待拂出書ハ其ノ日附ヨリ起算シ一週間ヲ經過シタルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ受理セス

第三十二條 振替貯金拂出證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日附ヨリ起算シ三十日トス

第三十三條 郵便貯金規則第六十五條乃至第七十六條ノ規定ハ之ヲ振替貯金ニ準用ス

附則

第三十四條 本規則ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 第四款 郵便貯金ニ關スル雜則

##### 第一 郵便貯金法施行期日

勅令第六十四號(明治三十八年五月)

郵便貯金法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

##### 第二 郵便貯金法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

勅令第六十五號(明治三十八年五月)

郵便貯金法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

##### 第三 郵便貯金利子割合ノ件

勅令第六十六號(明治三十八年五月、同三十九年一月勅令第十三號ヲ以テ追加)

郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年五分四毛トス但シ千圓以上ノ預入金ニ對シテハ省令ヲ以テ利子ノ割合ヲ低減スルコトヲ得

振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ前項ノ規定ニ拘ラス年三分六厘トス  
(本項ハ明治三十九年三月一日ヨリ施行セラル)

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

##### 第四 郵便貯金規則ニ依リ郵便貯金ニ預入ス

ルコトヲ得ル證券ノ種類

遞信省告示第二百二十九號(明治三十八年五月、同三十八年同省告示第五三二號ニテ追加)

來六月一日以降郵便貯金規則ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル證券ノ種類左ノ如シ

銀行會社法令大全 第七編 第一章 第四節 第四款 郵便貯金ニ關スル雜則 六百五十五

各種國債證券  
 新潟縣債券  
 山梨縣債券  
 岐阜縣債券  
 滋賀縣債券  
 石川縣債券  
 福井縣債券  
 富山縣債券  
 鹿兒島縣債券  
 東京市債券  
 大阪市債券  
 京都市債券  
 橫濱市債券  
 神戸市債券

長崎市債券  
 廣島市債券  
 高松市債券  
 貯蓄債券  
 勸業債券  
 興業債券  
 北海道拓殖銀行債券  
 以上各種債券ノ利札  
 但シ前記各種債券及其ノ利札ハ  
 無記名ノモノニ限ル  
 郵便爲替證書  
 但シ貯金ノ預入ヲ爲ス郵便局所  
 ニ於テ當該預ケ人ニ拂渡スヘキ  
 モノニ限ル

第五 郵便振替貯金ニ要スル拂込及拂出書用紙價格

遞信省告示第四十三號 (明治三十九年一月)

郵便振替貯金ニ要スル拂込書及拂出書用紙價格左ノ通相定ム

- 一 拂込書用紙 一冊(五十枚綴)ニ付 金拾錢
- 一 拂出書用紙 一冊(五十枚綴)ニ付 金拾五錢

第六 郵便振替貯金ノ拂込ニ私製拂込書用紙ヲ使用スルコトヲ得ル件

遞信省令第六號 (明治三十九年三月)

郵便振替貯金ノ拂込ニハ私製ノ拂込書用紙ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ用紙ハ郵便爲替貯金管理所發行ノモノト同様ニシテ其ノ相當欄ニ加入者ノ住所氏名及口座番號ヲ印刷シタルモノナルコトヲ要ス但シ其ノ裏面餘白ニハ通信文ノ性質ヲ有セサル廣告其ノ他ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得

第五節 外國郵便

第一款 外國郵便規則

外國郵便規則(明治三十五年十一月  
逓信省令第五十二號)

第一條 萬國郵便條約ニ依ル各種郵便物並ニ價格表記信書及箱物交換約定ニ依ル信書及箱物ハ之ヲ外國郵便物ト總稱シ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左記ノ物件ヲ外國郵便禁制品トス

一 郵便ニ關スル條約、約定及其ノ施行細則ニ據リ郵便物ト爲スコトヲ許ササル物件

二 郵便ニ關スル法令ニ據リ郵便物ト爲スコトヲ禁シタル物件

三 關稅及其ノ他ニ關スル法令ニ據リ輸出入ヲ禁シタル物件

四 特ニ告示シタル物件

第三條 外國郵便ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス

第四條 外國郵便ニ關スル料金ノ還付ニ付テハ明治三十三年(九月)逓信省令第四十二號郵便規則第八條及第九條ノ規定ヲ準用ス但シ前掲第九條ノ期間ハ六箇月トス

第五條 信書ノ容積及重量ニ付テハ何等ノ制限ナシ

第六條 外國へ發送スル郵便端書ハ政府發行ノ萬國郵便聯合端書同往復端書ヲ用フヘシ

第七條 郵便規則第十八條ノ規定ヲ準用シテ政府發行ノ萬國郵便聯合端書ニ基キ作成セル私製端書ハ萬國郵便聯合端書ト看做ス

第八條 內國郵便用ノ封緘葉書ハ郵便端書トシテ外國へ送付スルヲ得ス

第九條 價格表記信書及箱物ハ別ニ告示スル諸外國トノ間ニ限り之ヲ交換スルコトヲ得

第十條 價格表記信書及箱物ノ價格表記金額ノ制限ハ一萬「フランク」トス

第十一條 價格表記信書及箱物ノ價格表記ノ金額ニシテ本邦貨幣ニテ記載シアルトキハ郵便局所ニ於テ外國爲替金換算割合ニ依リ之ヲ佛貨ニ換算シ郵便物ニ記入ス

第十二條 外國ヨリ到着ニ係ル價格表記箱物ニ付テハ明治三十五年(十一月)逓信省令第五十三號外國小包郵便規則第二十一條乃至第二十四條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 普通及書留郵便物並ニ價格表記信書及箱物ハ別ニ告示スル諸外國トノ間ニ交換スルモノニ限り別配達ト爲スコトヲ得

別配達料ハ金拾貳錢トシ差出人ニ於テ之ヲ前納スヘシ

第十四條 外國ヨリ到着ニ係ル留置郵便物ノ留置期間ハ代金引換郵便物ヲ除クノ外六十日トス但シ艦船乗組人若ハ旅行者等ニ宛テタル郵便物ニシテ交付ノ見込アルモノハ尙三十日以



内留置クコトアルヘシ

第十五條 書留郵便物並ニ價格表記信書及箱物ハ別ニ告示スル諸外國トノ間ニ交換スルモノニ限リ代金引換ト爲スコトヲ得

第十六條 本邦宛代金引換郵便物ニ對スル取立代金ノ制限ハ金四百圓トス

第十七條 外國宛代金引換郵便物ニ對スル取立代金ノ制限額、其ノ代金ヲ表示スヘキ貨幣並ニ外國ニ於ケル該郵便物ノ取扱局ハ別ニ告示スル所ニ據ル

第十八條 外國宛代金引換郵便物ノ差出人ハ郵便物差出ノ後ハ代金引換ノ請求ヲ取消スコトヲ得ス

第十九條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換郵便物ニ付テハ郵便規則第四十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

到著郵便局所ハ前項ニ依リ取立テタル代金ヨリ引換料金四錢及取立代金ニ對スル成規ノ爲替料ヲ控除シタル後殘餘ノ金額ヲ郵便爲替ニ依リ差出人ニ送付スルモノトス

第二十條 外國ヨリ到着ニ係ル代金引換郵便物ニシテ名宛人他國へ移轉シタルトキ若ハ成規ノ條件ニ適合セザルトキハ差出國へ返送スルモノトス

第二十一條 外國宛代金引換郵便物ノ取立代金ニ對スル爲替ニシテ其ノ有効期間内ニ該郵便

物ノ差出人ニ拂渡シ能ハサルトキハ郵便爲替法第十三條ノ規定ニ準シ處分スルモノトス

第二十二條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニ付テハ郵便規則第八十一條ノ規定ヲ準用ス但シ同

條第二項ノ期間ハ三十日トシ同期間ヲ經過シタル後郵便ニ差出シタルモノニ付テハ彙ニ配達ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ轉送ニ要スル料金ヲ納付セシム

第二十三條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ノ名宛人一時其ノ宿所ヲ移轉シタルトキハ別ニ料金ヲ納付スルコトナク其ノ移轉先ニ該郵便物ノ轉送ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 外國ヨリ到着ニ係ル郵便物ニシテ何等ノ理由ヲ問ハス名宛人ニ交付シ能ハサルモノハ外國へ返送スルニ先チ適宜ノ期間之ヲ公示ス但シ名宛人ニ交付ノ見込ナキコト明瞭ナルモノハ此限ニ在ラス

第二十五條 外國宛郵便物ハ別ニ告示スル諸外國ニ宛テタルモノニ限リ其ノ取戻若ハ名宛變更ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ニ付テハ郵便規則第七十九條第一項ノ規定ヲ準用ス但シ外國へ差立前ニ係ルモノニ付テハ同條第二項ノ規定ヲ準用シ其ノ外國ニ差立後ニ係ルモノニ付テハ請求者ニ於テ郵便ニ依ルモノハ別ニ告示スル所ノ名宛國郵便官署宛書留信書一通分ノ料金、電信ニ依ルモノハ同官署宛私用電報ノ料金ヲ前納スヘシ

第二十六條 外國普通郵便物ノ踪跡不明ニ歸シタルトキハ外國宛ノモノニ付テハ其ノ差出人ヨリ引受郵便局所ヘ又外國ヨリ到着ニ係ルモノニ付テハ其ノ名宛人ヨリ到着郵便局所ヘ踪跡不明ノ旨ヲ證明スヘキ書類ヲ具シ別ニ料金ヲ納付スルコトナク其ノ取調ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ該郵便物ヲ郵便局所ニ差出シタル日ヨリ起算シ一箇年以内ニ限り之ヲ受理ス  
第二十七條 到達證ヲ請求セサル書留郵便物並ニ價格表記信書及箱物ノ差出人ハ郵便物一箇ニ付金五錢ヲ納付シ該郵便物踪跡ノ取調若ハ其ノ到達證ノ交付ヲ引受郵便局所ヘ請求スルコトヲ得

第二十八條 價格表記信書若ハ箱物ノ配達若ハ還付ノ際該郵便物ニ損害アリト申立テタル者アルトキハ郵便規則第八十四條及第八十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 價格表記信書及箱物ノ亡失若ハ毀損ニ關シ損害ノ賠償ヲ請求セムトスル者ハ該郵便物ノ種別、便名、番號、名宛人及差出人ノ宿所、氏名、差出日附、保有品名、數量、實價、損害前後ノ重量、請求金額及料金ノ還付ヲ求ムルトキハ其ノ金額ヲモ記載シタル請求書ニ成ルヘク疑ニ引受局所ヨリ交付ヲ受ケタル受取證ヲ添ヘ該郵便物ノ引受局所若ハ場合ニ依リ配達局所ニ差出スヘシ

賠償ノ責ニ任スル諸外國發著書留郵便物ノ亡失ニ對スル賠償ノ請求ニ付テモ亦前項ノ規定ヲ準用ス

第三十條 損害賠償ノ當否及其ノ金額ハ遞信省ニ於テ之ヲ審査決定ス

第三十一條 損害賠償ノ請求ニ關スル審査ヲ了リタルトキ又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲シタル者其ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ價格表記信書若ハ箱物ノ毀損ニ係ル請求ナルトキハ該郵便物ノ本邦管掌中ニ在ル限ハ直ニ之ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第三十二條 郵便規則第七條第十一條第十二條第十六條第十七條第三十八條第三十九條第六十六條第六十九條乃至第七十一條第七十三條乃至第七十八條第八十條第八十三條第二項及第三項第八十六條第二項及第八十七條ノ規定ハ外國郵便物ニモ之ヲ準用ス

附 則

第三十三條 此ノ規則ハ明治三十五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 第二款 外國小包郵便規則

外國小包郵便規則(明治三十五年十一月遞信省令第五十三號  
同三十七年同省令第五十一號第二次改正)

第一條 條約若ハ約定ニ據リ本邦及諸外國間ニ交換スル小包郵便物(以下單ニ外國小包郵便

物ト略稱スハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但特ニ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此限ニ在ラス

第二條 左記ノ物件ヲ外國小包郵便禁制品トス

一 小包郵便ニ關スル條約、約定及其ノ施行細則、細目規則ニ據リ小包郵便物ト爲スコトヲ許ササル物件

二 郵便ニ關スル法令ニ據リ小包郵便物ト爲スコトヲ禁シタル物件。

三 關稅及其ノ他ニ關スル法令ニ據リ輸出入ヲ禁シタル物件

四 特ニ告示シタル物件

第三條 通貨、金銀、寶石、珠玉其ノ他高價ノ物件ハ價格表記ト爲スニ在ラサレハ外國小包郵便物トシテ差出スコトヲ得ス但價格表記ノ取扱ヲナササル諸國ハ宛タル小包郵便物若ハ其ノ取扱ヲ許ササル條約又ハ約定ニ據リ差出スコトハ此ノ限ニ在ラス

第四條 華盛頓小包郵便條約ニ據ル取扱ニ困難ナル小包郵便物ハ之ヲ取扱ハス

第四條ノ二 米國トノ條約ニ據ル小包郵便物ニシテ本邦引受ニ係ルモノヲ本邦疆内ニ於テ亡失若ハ毀損セシメタル場合ニ於テハ内國小包郵便物ノ例ニ依リ賠償ヲ爲ス

第五條 外國小包郵便物ノ寸尺、重量及容積ノ制限ハ特ニ告示スルモノノ外條約若ハ約定及

其ノ施行細則、細目規則ノ規定ニ依ル但名宛國ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條 外國小包郵便物ノ郵便料並ニ其ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス

外國小包郵便ニ關スル料金ハ郵便切手ヲ以テ前納スヘシ但轉送、返送ノ場合ニ於ケル郵便料及保險料ハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テ轉送、返送ニ要スル料金ヲ前納セサルトキハ轉送料ハ受取人ヨリ又返送料ハ差出人ヨリ徵收ス

第七條 外國小包郵便ニ關スル料金以外ノ金額ハ配達ノ際受取人ヨリ徵收ス

第八條 外國小包郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載スルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル郵便料過徵及誤納額

二 特殊取扱ノ請求アリタルモノニシテ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲サザリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金

三 郵便局所ノ過失ニ因リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ受取人ニ到達シタル別配達取扱ノ料金

四 亡失ニ依リ損害賠償ヲ爲シタル場合ノ郵便料及踪跡取調ノ料金

第九條 前條ノ料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ

銀行會社法令六金 第七編 第一章 第五節 第一款 外國小包郵便規則 六百六十五

料金納付ノ日ヨリ六箇月トス

第十條 外國小包郵便物ノ差出人ハ送狀通知券ニ其ノ小包郵便物ニ關スル通知文ニ限リ記載スルコトヲ得但其ノ記載ヲ許ササル諸國ニ宛タルモノ若ハ之ヲ許ササル條約又ハ約定ニ據リ差出スモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 外國小包郵便物ノ差出人ハ小包郵便物差出ノ際名宛國ノ郵便局所ニ於テ配達ヲ遂クル能ハサル場合ニ於ケル該小包郵便物ノ輸送、返送又ハ棄却等ノ處分ニ付豫メ請求ヲ爲スコトヲ得但之カ取扱ヲ許ササル條約若ハ約定ニ依リ差出ス小包郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 外國小包郵便物ノ受取人ハ該小包郵便物ノ轉送ヲ名宛地ノ郵便局所ニ請求スルコトヲ得

外國小包郵便物ノ受取人其ノ宿所ヲ本邦郵便管轄區内ニ於テ移轉シ其ノ移轉先分明ナルトキハ之ヲ其ノ移轉先ニ轉送ス

本邦郵便管轄區域内轉送ノ場合ニハ何等ノ料金を徴收セス

第十三條 價格表記又代金引換ノ金額ノ制限ハ各一千「フランク」トス但名宛國ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

第十四條 外國小包郵便物ニハ其ノ表面名宛ノ箇所ニ見易キ機華盛頓條約ニ據リ差出ス小包

郵便物ノ場合ニハ「萬國小包」、英國及其ノ他ノ諸國トノ條約若ハ約定ニ據リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「英國小包」、「加那太小包」、「米國小包」等其ノ便名ヲ記載スヘシ

第十五條 外國小包郵便物ヲ差出サルトキハ郵便局所ヨリ香港、加那太及米國トノ條約、約定ニ據ル場合ハ稅關告知書、其他ノ條約、約定ニ據ル場合ハ送狀及稅關告知書ノ式紙ヲ受取リ之ニ各其ノ指定ノ事項ヲ記載シ且料金相當ノ郵便切手ヲ各其ノ小包郵便物ニ貼附シテ共ニ之ヲ該郵便局所ニ差出シ受領證ヲ受取ルヘシ

第十六條 特殊取扱ヲ許容スル條約若ハ約定ニ據リ差出ス小包郵便物ニ對シ其ノ特殊取扱ヲ請求セムトスルトキハ左ニ記載セル文字ヲ該小包郵便ノ表面名宛ノ箇所竝ニ之ニ附屬スヘキ送狀ノ式紙ニ記入スヘシ

一 價格表記ヲ請求セムトスルトキハ  
價格表記何程 (Valenrdeclaree.)

二 代金引換ヲ請求セムトスルトキハ  
代金引換何程 (Remboursment.)

三 別配達ヲ請求セムトスルトキハ

銀行會社法令大全 第七編 第一章 第五節 第二款 外國小包郵便規則

別配達 (Etyres)

四 到達證ヲ請求セムトスルトキハ

到達證 (Avis de réception)

五 書留ヲ請求セムトスルトキハ

書留 (Registered)

前項ノ特殊取扱ハ名宛國ニ於テ其ノ事務ヲ取扱フ諸國ニ宛タル小包郵便物ニ限ル  
價格表記及代金引換ノ金額ハ本邦ノ通貨ヲ以テ之ヲ記載スヘシ但錢位未滿ノ端數ヲ付スル  
コトヲ得ス

第十七條 價格表記若ハ代金引換ノ外國小包郵便物ノ表記金額ハ差立若ハ到着ノ際遞信大臣  
ノ指定スル郵便局所ニ於テ外國郵便爲替金換算ノ例ニ依リ外國へ差立ツルモノニ付テハ拂  
貨「フランク」、「サンチーム」ニ又外國ヨリ到着ノモノニ付テハ本邦貨幣ニ換算ス

第十八條 代金引換外國小包郵便物ハ名宛郵便局所ニ留置キ其ノ到着ノ旨ヲ受取人ニ通知シ  
受取人ノ出頭ヲ待テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

前項ノ留置期間ハ通知書ノ日附ヨリ起算シ三十日トス

第十九條 代金引換外國小包郵便物ノ代金ヲ其ノ受取人ヨリ取立テタルトキハ引受郵便局所

ハ差出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書及該小包郵便物ノ受領證ヲ差  
出シ之ト引換ニ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

第二十條 外國小包郵便物到達證請求ノモノハ其ノ配達ノ際受取人ヲシテ配達證ノ外到達證  
ニモ記名調印セシム

第二十一條 外國小包郵便物ノ差出人ハ未タ配達ヲ了ラサル小包郵便物ノ名宛變更又ハ取戻  
ヲ請求スルコトヲ得但之カ取扱ヲ許ササル條約若ハ約定ニ據リ差出シタル小包郵便物ハ此  
ノ限ニ在ラス

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ別ニ告示スル料金ヲ前納スヘシ

第二十二條 外國小包郵便物ニシテ關稅若ハ內國稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所  
ニ留置キ到着通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日付ヨリ三十日以内ニ關稅ノ場合  
ニ於テハ稅額ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ內國稅ノ場合ニ於テハ明治三十七年勅  
令第六十五號ニ據リ收入印紙若ハ特別ノ印紙ヲ通知書若ハ該輸入物品ニ貼付シ郵便局所  
ノ消印ヲ受ケ通知書ハ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ小包郵便ヲ受取ルヘシ

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事

由ラ關係郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ差出スヘシ

關稅若ハ内國稅ノ賦課ニ關シ大藏大臣ニ訴願シタル場合及其ノ訴願ノ裁決ヲ得タルトキ亦同シ

第二十三條 前條ニ掲クル外國小包郵便物ノ保有品カ關稅定率法若ハ其ノ他ノ法令ニ依リ關稅ヲ免除セラルヘキモノナル場合ニ於テ受取人カ其ノ免除ヲ得ムトスルトキハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ關係郵便局所ニ申出ヘシ

前項ノ申立ニ對シ受取人カ稅關免除許否ノ通知ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ差出スヘシ

第二十四條 第二十二條ノ外國小包郵便物留置期間ノ經過ハ同條第二項ノ場合ニ於テハ異議ノ判定若ハ訴願ノ裁決ヲ得ルマテ又第二十三條ノ場合ニ於テハ關稅免除許否ノ通知ヲ得ルマテ之ヲ中止ス

第二十五條 受取人ニ配達交付スルコト能ハサル外國小包郵便物ノ處分方ニ關シ郵便局所ヨリ差出人ニ問合書ヲ送付シタルトキハ問合書ノ日附ヨリ三十日以内ニ轉送、返送若ハ棄却等其ノ希望ヲ該郵便局所ニ申出ヘシ

第二十六條 外國小包郵便物ノ差出人ハ小包郵便物差出後相當ノ料金ヲ納付シテ到達證ノ交付若ハ到達證料金ト同額ノ料金ヲ納達シテ該小包郵便物ノ踪跡取調ヲ引受郵便局所ニ請求スルコトヲ得

到達證若ハ書留ヲ請求シタル小包郵便物ニ付テハ別ニ料金ヲ納付スルコトナク前項ノ踪跡取調若ハ到達證ノ引受郵便局所ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ請求ハ小包郵便物ヲ郵便局所ニ差出シタル月ヨリ起算シ一箇年以内ニ限り之ヲ受理ス

第二十七條 外國小包郵便物ノ配達又ハ還付ノ際小包郵便物ニ損害アリト申立テタル者アルトキハ七日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ有無ヲ檢査ス

前項ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキハ申立人受取人ナルトキハ小包郵便物ハ配達シ能ハサルモノトシテ之ヲ取扱ヒ申立人差出人ナル場合ニ於テハ郵便法第十四條ニ依ル還付シ能ハサル小包郵便物トシテ之ヲ取扱フ

第二十八條 外國小包郵便物ニ關シ損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ差出人ノ場合ニハ其ノ小包郵便物ノ引受ヲ爲シタル郵便局所ニ又受取人ノ場合ニハ其ノ小包郵便物ノ配達ヲ爲スヘキ郵便局所ニ該小包郵便物ノ便名、種別、番號、受取人及差出人ノ宿所氏名、差出日附、保有品名、

數量、請求金額及料金ノ返還ヲ求ムルトキハ其ノ金額ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第二十九條 損害賠償請求ノ當否及其ノ金額ハ遞信省ニ於テ之ヲ審査決定ス

第三十條 損害賠償ノ請求ニ關スル審査ヲ了リタルトキ又ハ損害賠償ノ請求ヲ爲シタルモノ其ノ請求ヲ取消シタルトキハ其ノ小包郵便物ノ本邦管掌中ニ在ル場合ニ於テハ直ニ之ヲ其ノ請求人ニ交付ス

第三十一條 郵便規則第四條第七條第十條第十一條第十二條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條及第七十七條ノ規定ハ外國小包郵便ニモ之ヲ準用ス

附則

第三十二條 本規則ハ明治三十五年十二月一日ヨリ施行ス

第三款 外國郵便爲替

第一 外國郵便爲替規則

外國郵便爲替規則(明治三十三年九月遞信省令第五十七號)  
(同三十八年同省令第三十九號迄數次改正)

第一章 總則

第一條 外國郵便爲替ハ萬國聯合郵便爲替事務約定ニ加盟國中別ニ告示シタル外國又ハ箇所ノ若ハ本邦ト特別ニ郵便爲替約定ヲ締結シタル外國並以上ノ外國郵政廳ノ媒介ニ依リ別ニ告示シタル外國又ハ箇所トノ間ニ之ヲ交換スルモノトス

外國電信爲替ハ萬國聯合郵便爲替事務約定ニ加盟國中別ニ告示シタル外國トノ間ニ之ヲ交換スルモノトス

第二條 萬國聯合郵便爲替事務約定ニ依ル爲替ハ以下之ヲ萬國聯合郵便爲替若ハ萬國聯合電信爲替ト稱シ特別ニ締結セル郵便爲替約定ニ依ル爲替ハ以下之ニ當該外國名ヲ冠ラシメタルモノヲ以テ各其略稱トシ外國郵政廳ノ媒介ニ依ル爲替ハ以下之ヲ媒介爲替ト稱シ之ニ當該外國名ヲ冠ラシメタルモノヲ以テ各其略稱トス

第三條 外國郵便爲替ハ內國郵便爲替ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

萬國聯合電信爲替ハ特ニ之ヲ取扱フコトヲ告示シタル局所ニ限リ之ヲ取扱フ  
第四條 萬國聯合郵便爲替並香港及其ノ媒介爲替ハ別ニ告示シタル直接交換局ニ於テハ直接ニ其ノ振出及拂渡業務ヲ取扱ヒ其ノ他ノ郵便局所ニ於テハ別ニ告示シタル區別ニ從ヒ當該直接交換局ヲ經由シテ其ノ受拂業務ヲ取扱フモノトス





事項ヲ記入シ爲替料相當ノ郵便切手ヲ貼付シ郵便局所ニ差出スヘシ郵便局所ニ於テ爲替金額(外國貨幣額)ヲ本邦通貨ニ換算シテ之ヲ其ノ爲替願書ニ記入ノ上示サレタルトキハ該金額ヲ差出シ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ受取ヘシ但シ香港爲替ニシテ直接交換局ノ振出ニ係ルモノニ付テハ外國郵便爲替拂込金受領證書ノ外尙爲替券ヲモ受取り爲替券ハ之ヲ其受取人へ送付スヘシ

第十二條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人ニ於テ爲替券ニ受取人へ宛ツル通信ヲ附記スルコトヲ望ムトキハ爲替振出ノ際郵便局所ニ其ノ旨申出テ當該振出郵便局所ニシテ直接交換局ナル場合ニ於テハ爲替券面通知券ノ部ニ又其ノ他ノ郵便局所ナル場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ之ヲ記載シ當該振出郵便局所ニ差出スヘシ

第十三條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人爲替金、爲替券若ハ爲替到着報知書ノ別配達ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便爲替願書ニ其ノ旨ヲ記載シ且其ノ料金トシテ爲替一口ニ付金五錢ヲ納付スヘシ

第十四條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人爲替拂渡通知書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便爲替願書ニ其ノ旨ヲ記載シ且其ノ料金トシテ爲替一口ニ付金五錢ヲ納付スヘシ

出郵便局所ニ其ノ旨申立テ且前項ノ手数料ト同額ナル料金ヲ納付スヘシ  
前二項ノ爲替拂渡通知書交付ノ請求アリタル萬國聯合郵便爲替ニ對シ振出郵便局所ニ於テ拂渡郵便局ヨリ爲替拂渡通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ書留郵便ニ依リ之ヲ差出人ニ送付ス

第十五條 外國郵便爲替ノ差出人爲替振出後外國郵便爲替願書ニ自己又ハ受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ呈示スヘシ

第十六條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナル旨通報ニ接シタルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第十七條 萬國聯合郵便爲替券ノ取戻若ハ其ノ名宛變更ニ付テハ外國郵便物ノ取戻若ハ其ノ名宛變更ニ關スル規定ヲ準用ス但シ請求者ハ外國郵便爲替拂込受領證書ヲ呈示スヘシ  
前項爲替券ノ取戻若ハ其ノ名宛變更ニ關スル請求書ヲ發送スヘキ名宛國郵便官署名ハ別ニ告示シタル所ニ依ル

第二節 拂渡前ニ於ケル取扱

第十八條 郵便局所ニ於テ外國郵便局振出ニ係ル萬國聯合郵便爲替券ノ送付ヲ受ケタルトキ

ハ之ヲ受取人ニ送達ス但シ別ニ定ムル所ニ從ヒ之ヲ局所渡ト爲スコトヲ得  
前項ノ爲替受取人爲替券ヲ受取ルトキハ其ノ送達票ニ受領證印スヘシ

第十九條 直接交換局ニ於テ外國郵便局振出ニ係ル香港煤介爲替券竝自局以外ノ郵便局所ニ  
於テ拂渡スヘキ香港爲替券ノ送付ヲ受ケタルトキハ其爲替券ヲ受取人ニ送達ス

第二十條 外國ヨリ振込ヲ受ケタル前二條以外ノ外國郵便爲替ニ付テハ郵便爲替貯金管理所  
ニ於テ爲替券ヲ發行シ之ヲ受取人ニ送達ス

### 第三節 拂渡

第二十一條 外國郵便爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ爲替券ニ記名調印  
シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十二條 拂渡郵便局所ハ外國郵便爲替ノ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ外國郵便爲替報知書

- ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス
- 一 差出人ノ宿所氏名
- 二 受取人ノ宿所氏名
- 三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

萬國聯合郵便爲替ニ付テハ前項ニ準據スルノ外尙爲替券送達票ニ於ケル受取人ノ印影ト爲

替券ニ於ケル印影ト符合スルヲ認メ拂渡ヲ爲スモノトス

第二十三條 萬國聯合郵便爲替ノ受取人代人ヲ以テ爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ爲  
替券ノ裏面ニ委任文ヲ記載セスシテ必ス委任狀ヲ差出スヘシ

### 第四節 拂戻

第二十四條 萬國聯合郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ爲替券ニ記名  
調印シ外國郵便爲替拂込金受領證書ト共ニ之ヲ振出郵便局所ニ差出スヘシ但シ不達、亡失、  
毀損若ハ汚斑セル爲替券ニ付拂戻ヲ請求セムトスルトキハ又ハ獨逸煤介爲替又ハ佛國煤介爲  
替ノ差出人爲替券ヲ所持セサル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便  
爲替金拂戻請求書ヲ振出郵便局所ニ差出シ且外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ呈示スヘシ  
萬國聯合郵便爲替以外ノ萬國郵便爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ前項  
但書ノ手續ヲ爲スヘシ但シ香港爲替ノ差出人爲替券ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ爲替券ヲ  
請求書ニ添ヘ差出スヘシ

前二項ニ依リ外國郵便爲替金拂戻請求書ヲ差出ス者アルトキハ郵便爲替貯金管理所ニ於テ  
拂渡國郵政廳ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ヲ爲ササリシコト及其ノ拂渡ヲ爲ササルヘキコトヲ  
確認シタル後前二項ノ外國郵便爲替金振戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返

付ス

六百八十

差出人ハ前項ノ外國郵便爲替金拂戻請求書ニ爲替金領收ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上外國郵便爲替金受領證書ト共ニ之ヲ振出郵便局所ニ差出シ爲替金ノ拂戻ヲ受クヘシ

第二十五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ有効期間ヲ經過セルカ受取人ニ於テ受取ヲ拒絕セルカ又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ拂渡國郵政廳ヨリ外國郵便爲替ノ返還ヲ受ケタルトキハ外國郵便爲替金拂戻通知書ヲ該爲替ノ差出人ニ送付ス

差出人ハ前項ノ外國郵便爲替金拂戻通知書中爲替金受領證印ノ部ニ記名調印シ外國郵便爲替拂込金受領證書ト共ニ之ヲ振出郵便局所ニ差出シ爲替金ノ拂戻ヲ受クヘシ

第二十六條 前二條ノ爲替金ノ拂戻ヲ受ケサルトキハ郵便爲替法第十三條ノ規定ニ準シ處分ス

第二十七條 本章第三節ノ規定ハ外國郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第二十八條 外國郵便爲替ノ受取人ハ拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得外國郵便爲替ノ差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第六節 拂渡認可書及第二爲替券

第二十九條 萬國聯合郵便爲替券ノ不達、亡失、毀損若ハ汚斑ニ因リ拂渡認可書ノ交付ヲ請求

セムトスルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 受取人ヨリ請求セムトスルトキハ拂渡認可書請求書ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ但シ爲替券毀損若ハ汚斑ノ場合ニ於テハ該爲替ヲ差出シ又其ノ亡失ノ場合ニ於テハ相當保證人ヲ立テ請求書ニ連署スヘシ

二 差出人ヨリ請求セムトスルトキハ拂渡認可書請求書ニ外國郵便爲替拂込受領證書ヲ添ヘ之ヲ振出郵便局所ニ差出スヘシ差出人ハ拂渡認可書請求書ニ對スル受領證書ヲ受取ルヘシ

第三十條 萬國聯合郵便爲替以外ノ外國郵便爲替ノ受取人爲替券ノ不達、亡失、毀損若ハ汚斑ニ因リ第二爲替券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ第二爲替券請求書ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ但シ爲替券毀損若ハ汚斑ノ場合ニ於テハ該爲替券ヲ差出シ又其ノ亡失ノ場合ニ於テハ相當保證人ヲ立テ請求書ニ連署スヘシ

第三十一條 當該拂渡又ハ振出郵便局所ニ於テ外國郵政廳又ハ郵便爲替貯金管理所發行ニ係ル拂渡認可書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第十八條ニ準據シ之ヲ請求者ニ送達ス

郵便爲替貯金管理所ニ於テ第二爲替券ヲ發行シタルトキハ第二十條ニ準據シ之ヲ受取人ニ

送付ス

第七節 爲替金居宅拂

第三十二條 外國郵便爲替ノ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 外國郵便爲替ノ受取人前條ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ料金トシテ爲替一口ニ付金

四錢ヲ納付スヘシ

第三章 電信爲替

第三十四條 萬國聯合電信爲替ノ差出人ハ該爲替ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ外國郵便爲替願書  
用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ且特ニ電信爲替ノ文字竝至急、返信料前納、照校、受信  
報知、郵便配達若ハ別配達ノ手數ヲ經ルコトヲ望ムトキハ其ノ指定ヲ附記シ爲替料相當ノ  
郵便切手ヲ貼付シ振出郵便局所ニ差出スヘシ當該郵便局所ニ於テ爲替金額(外國貨幣)額ヲ  
本邦通貨ニ換算シ之ヲ其ノ爲替願書ニ記入ノ上示サレタルトキハ該金額ヲ差出シ且相當電  
報料ヲ納付シ外國郵便爲替拂込金受領證書ヲ受取ルヘシ

第三十五條 前條ノ爲替差出人ニ於テ爲替電報紙ニ受取人へ宛ツル通信ヲ附記スルコトヲ望  
ムトキハ振出郵便局所ニ其ノ旨申出テ爲替電報紙ノ通信欄ニ記載シ差出スヘシ

第三十六條 電報料ハ爲替通知ノ語數ト差出人通信ノ語數トヲ通算シ萬國電信ニ關スル規定

ニ依リ之ヲ納付スヘシ

第三十七條 第二章中萬國聯合郵便爲替ニ關スル規定ハ第十一條乃至第十三條及第十七條ヲ  
除クノ外之ヲ電信爲替ニ準用ス

附則

第三十八條 本規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年(五月)遞信省令第四號ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十九條 本規則施行前ニ有効期間經過ノ爲メ拂渡國郵政廳ヨリ返還ヲ受ケタル外國郵便  
爲替ニ在リテハ第二十六條ニ依ル期間ハ郵便爲替法第十八條但書前段ノ規定ニ準ス

第二 郵便爲替證書線引讓渡規則準用ノ件

遞信省令第二十四號(明治三十四年五月)

明治三十四年(三月)遞信省令第十三號郵便爲替證書線引讓渡規則ハ之ヲ外國郵便爲替ニ準用  
ス但シ萬國聯合郵便爲替ニ在リテハ爲替券ノ裏面ニ於ケル讓渡裏書ノ場所ニ線引ヲ爲スヘ  
シ

線引ヲ爲シタル外國郵便爲替券ニ對シ銀行ヨリ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ外國郵便爲替

規則第二十二條ノ手續ヲ爲サス之カ拂渡ヲ爲スヘシ

## 第二章 電信

### 第一節 電信法及電信規則

#### 第一款 電信法

電信法(明治三十三年三月  
法律第五十九號)

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一 一邸宅若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ

二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡

市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五 一市區町村内若ハ隣接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不

適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又

ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコ

トヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止

若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキ

ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ

難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於

テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ

於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ

之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲メ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條 電信若ハ電話専用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り發信人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用井タル祕辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發信人若其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ受信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徴收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ依リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事由アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ施設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電話又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ施設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地、建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物、建築改築ヲ爲ササル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百

圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虚偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス

電信事務ニ從事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又

ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脱シタルトキハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絕シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障碍シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信、電話ノ線路若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繋キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以內ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條 第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未犯遂罪ノ例ニ照シテ處斷ス



第四十二條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國ト外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第二款 電報規則

電報規則 (明治三十三年九月遞信省令第四十六號 同三十八年同省令第十四號第三次改正)

第一章 總則

第一條 電報ヲ以テ左ノ三種トス

一 官報

二 局報

三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公信並外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アリ

ル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス  
國庫金取扱ニ關シ金庫ヨリ發スル電報並戰時事變ニ際シ日本赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲政  
府ノ使用ニ供スル船舶若ハ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲  
スコトヲ得官報發送ノ資格ナキモノト雖受取タル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送  
スルコトヲ得

第三條 局報トハ電報事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ

前項ノ外電報、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間  
ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金  
郵便貯金及ヒ郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同  
シ

氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其ノ他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ  
承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得

第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ

一 至急官報

二 至急局報

三 至急私報

四 官報

五 局報

六 私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ中繼及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依  
リ之ヲ傳送配達スヘシ

第七條 發信人又ハ受信人ハ電信局所ノ要求アルトキハ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘ  
シ

第二章 電報書法

第八條 電報ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其ノ各電報ニ用ウヘキ文字及記號ハ左ニ掲ク  
ルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外和文電報ニ用ウヘキ文字記  
號ト歐文電報ニ用ウヘキ文字記號トヲ混スルコトヲ得ス

一 和文電報ニ用ウヘキモノ

片假名

マヤクオノ井ウムラナネツソレタ

銀行会社法令大全 第七編 第二章 第一節 第二款 電報規則

六百九十七

ヨカワラルヌリチトヘホニハロイ

六百九十六

九 八 七 六 五 四 三 二 一  
 數 字  
 ○(半濁點)  
 〃(濁點)  
 シ ス セ

銀行會社法令大全 第七編 第二章 第一節 第二款 電報規則

六百九十九

モ ヒ エ シ ミ メ ユ キ サ ア テ エ コ フ ケ

六百九十八

O Ñ N M L K J I H G F É E D CH

銀行會社法令大全 第七編 第二章 第一節 第二款 電報規則

C B Ä Å A

羅馬字

二 歐文電報ニ用フヘキモノ

歸除線 /

小括弧「」

括弧（）

新章「」

句讀點。

長音

記號

○

記號	0	9	8	7	6	5	4	3	2
終點	—	—	—	—	—	—	—	—	—
讀點	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小讀點	—	—	—	—	—	—	—	—	—
重點	—	—	—	—	—	—	—	—	—
間標	—	—	—	—	—	—	—	—	—

銀行會社法令大全 第七編 第二章 第一節 第二款 電報規則

亞刺比亞數字	1	Z	Y	X	W	V	U	T	S	R	Q	P	ö
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

感符	！	———
略符	、	———
新章	//	———
連續點	—	———
括弧	( )	———
轉倒	“ ”	———
句讀	“ ”	———
字下線	—	———
歸除線	/	———

第九條 電報ニ用ウル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
至急	ウ ナ	U N
至急親展	ウ ニ	U N
返信料前納	ナ ッ	N P
返信至急	ナ ウ	N U
返信照校	ナ ム	N M

照校	ム ニ	FO
電報受信報知	ツ ニ	PO
郵便受信報知	ツ ツ	PP
追尾	チ ラ	FS
再送	ナ チ	BF
同文	ム ヨ	TM
同文連名	ヨ イ	MA
外國郵送	ツ タ	PN
留置	ム ナ	FR
別使配達	マ ッ	FR
船船配達	ハ ホ	BD
別使電報報知	マ ム	FX
別使料郵便報知	マ ヨ	FX
書留郵便配達	ツ ナ	PR
無減配達	ナ レ	RO

銀行會社法令大全 第七編 第二章 第一節 第二款 電報規則

局待  
親展

ヤム  
ニカ

W F  
O L

第十條 電報ニ用ウル語辭ハ普通辭秘辭隱語ノ三種トス

第十一條 普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語歐文電報ニ於テハ羅甸語又ハ歐洲國語ニシテ其ノ意味ノ通解シ易キモノヲ云フ

羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數字ノ聯集及商標又ハ記號トシテ用非タル文字若ハ數字ハ之ヲ普通辭ト見做ス

第十二條 隱語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用非其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

歐文ノ隱語ハ一聯綴十字以下ノモノヲ用非日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、荷蘭、伊太利、葡萄牙及羅甸ノ國語中ヨリ採擇スルコトヲ要ス但シ固有名詞ハ萬國電信總局刊行ノ隱語集ニ掲載スル者ノ外隱語トシテ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十三條 秘辭トハ文字又ハ數字ノ孤立若ハ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ前項ノ外普通辭及隱語ニ非サル語辭ハ之ヲ秘辭ト見做ス

歐文ノ秘辭ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス

第十四條 濁點及半濁點ハ片假名ニ附記スルノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十五條 和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞刺比亞數字ニ直接ニ附隨セシムル場合ノ外用ウルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十六條 和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限り羅馬字又ハ亞刺比亞數字及歐文記號ヲ挿入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十七條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ超エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ字數ノ多少ニ拘ハラズ一箇ヲ一聯集トシテ記載スルコトヲ得

二箇以上ノ名稱聯合シタルモノ又ハ名稱ニ他ノ語句ヲ附加シタルモノト雖普通一名稱トシテ用非ラルルモノハ前項但書ノ例ニ據リ記載スルコトヲ得

第十八條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ混用スルトキハ其ノ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得ス

第十九條 電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限り之ヲ連記スルコトヲ得

第二十條 受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若其ノ地名ニシテ著明ナラサルカ又ハ他ニ類似ノモノアルトキハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ

和文電報ノ居所中不必要ト認ムルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得



第二十一條 受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ス著信地名ヲ附記スヘシ  
一市區町村内ニ二箇以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ノ前ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括弧ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ

略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」「氣付」又ハ之ニ相當スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 電報ノ本文ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第二十三條 發信人ハ自己ノ居所氏名ノ傳送ヲ要スルトキハ賴信紙中本文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサムトスルトキハ和文電報ニ在リテハ受信人名所ノ下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載スヘシ

第二十四條 電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條 發信人ノ記載シタル指定事項ノ略符號判然セサルモノハ其ノ略符號ナキ電報トシテ取扱フヘシ

略符號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノハ電信局所ニ於テ之ニ相當スル

略符號ニ改正スヘシ

第二十六條 發信人ハ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ナキモノト雖電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ

第三章 字數及語數計算

第二十七條 電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス

一 本文

二 歐文電報ノ受信人居所氏名

但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク

三 和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名並逐書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第一以下ノ居所

四 轉送ヲ要スル發信人居所氏名

五 指定事項

六 第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

第二十八條 和文ノ數字及記號ハ其ノ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス

第二十九條 和文電報中ニ用ヰタル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

第三十條 歐文ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超ユルモノハ十五字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十一條 歐文電報中ニ用ヰタル亞刺比亞數字ハ其ノ聯綴五箇ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五箇ヲ超ユルモノハ五箇迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十二條 歐文電報中羅馬字又ハ亞刺比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス

第三十三條 歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯記シタル祕辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十四條 普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超ユルモノハ十字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條 第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ計算ス

第三十六條 歐文電報中第十一條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違ヒ聯結若ハ省略シタルモノハ正當聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

府縣名、國名其ノ他ノ地名、船名、羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字典ニ依リ證明シ得ヘキ

聯結語ハ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條 歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ數字一箇ニ計算ス

一 順序數ヲ示ス爲ニ亞刺比亞數字ニ附加シタル羅馬字

二 商標、祕辭又ハ亞刺比亞數字ノ聯集中ニ用ヰタル諸點及歸除線

第三十八條 歐文電報中連續點ヲ以テ繋キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其ノ毎分語ヲ一語ニ計算ス但シ其連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セズ

第三十九條 歐文電報中ニ用ヰタル終點、讀點、小讀點、重點、問標、感符、新章、括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用ヰタル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同

第四章 料金

第四十一條 通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ

- 一 市區町村内ニテ發受スル電報料
- 一 和文 片假名十五字以内 金拾錢
- 一 五字以内ヲ加フル毎ニ金參錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内

金拾五錢

前項以外ノ電報料

一語ヲ加フル毎ニ金叁錢ヲ増ス

一 和文 片假名十五字以内

金貳拾錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

二 歐文 五語以内

金貳拾五錢

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

第四十二條

電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文

電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖十五字以内ノ電報料ヲ課ス

第四十三條

第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條

特別電報料其ノ他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條

電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條

電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ク

第四十七條

左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘ

シ

一 電信局所ノ過失ニ因リ受信人ニ到達セサルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ時日ヨリ遅レ

テ到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ送達シタルモノヲ除ク

二 電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤謬ヲ生シ且用辨ヲ闕キタルモノノ料金但シ尋問ノ

電報ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

三 電信局所ノ過失ニ依リ徵收シタル過納及誤納ノ電報料金

四 發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受信電報料及送

達料

五 電報直配達區域内ニテ配達シタル電報又ハ別使、解船若ハ書留郵便ヲ以テ配達ヲ爲サ

サリシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六 返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ其ノ殘餘ノ料金

七 第四百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ控除シタル前納ノ返信料

金

八 返信料前納電報ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セサリントキ又ハ返信料前納電報ヲ配達

シ能ハスシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ交付シタル返信料前納證書

銀行會社法令六金 第七編 第二章 第一節 第二款 電報規則 七百十三

ヲ其ノ使用期間ニ使用セサリシトキハ前納シタル返信料金

九 發信局所ニ於テ轉送前ニ返還シタル電信ノ料金

第四十八條 電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル電信局所ニ之ヲ爲スヘシ  
其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス

第四十九條 電報ニ關スル料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ著信局所又ハ受信  
人ノ證明書、誤謬又ハ遅延ニ係ルモノハ其ノ電報送達紙、返信料前納證書ヲ使用セサリシモ  
ノハ其ノ證書ヲ請求證書ニ添付スヘシ

第五十條 同文電報ノ内一通若ハ通數ノ料金ヲ還付スルトキハ原信電報料及同文電報料ヲ併  
セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トス

第五十一條 二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金還付ハ其ノ内ノ一名ニ之ヲ  
爲スヘシ

第五十二條 受信人ニ於テ電報ニ關スル料金ノ追納ヲ要スル電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ  
追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ因リ之ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ  
發信人ヨリ其ノ料金ヲ徵收ス

第五十三條 電報ニ關スル料金ヲ追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以上ナルトキハ其ノ内

ノ一名ヨリ之ヲ徵收スヘシ

第五章 電報差出

第五十四條 電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局所ニ之ヲ差出スヘシ

第五十五條 郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ裏面ニ「電報在中」ト記載スヘシ此ノ

場合ニ於テハ其ノ普通郵便料ニ限り無料トナスコトヲ得

第五十六條 電報局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報取扱時間外ニ限り發信人ハ之ニ電  
報ヲ差入ルルコトヲ得

第五十七條 左ニ掲クル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時間以内ニ其ノ電報配  
達人ニ依託シテ電報ヲ差出スコトヲ得

一 返信料前納電報

二 局待電報

三 別使配達電報

四 解船配達電報

第五十八條 豫納金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出スコトヲ得  
ス

第五十九條 第五十五條及第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到着シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス

電報取扱時間外ニ到着シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル電報ハ總テ次ノ取扱開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間ヲ定メス取扱ヲ爲スヘキ電報ヲ第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例ニ依ル

第六十條 書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其ノ事由ヲ發信人ニ通知スヘシ

第六十一條 發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スヘシ

第六十二條 電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其ノ局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムトスル電報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條 受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條 封緘セスシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無緘配達ノ符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十六條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十七條 別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金貳拾錢トシ三里ヲ超ユルトキハ二里以内毎ニ金貳拾五錢ヲ増ス

島嶼ニ宛テタルモノノ別使配達料ハ里程ニ拘ラス金貳拾錢トシ其ノ配達實費之レニ超過シタルトキハ實費額ニ依ル

第六十八條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其ノ配達料ノ最少額ヲ納付スヘシ

著信局所ヨリ三里ヲ超ユル場合ニ於テ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ對スル配達料ヲ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別使配達略符號ノ次ニ其ノ里程ヲ指定スヘシ

前二項ニ依リ納付シタル配達料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第六十九條 受信人ノ追納スヘキ別使配達料ヲ發信人ニ於テ納付セムトスルトキハ別使料電報報知又ハ別使料郵便報知ノ略符號ヲ以テ指定シ電報報知ヲ要スルモノハ和文電報十五字ニ相當スル通常料金郵便報知ヲ要スルモノハ金參錢ヲ増納スヘシ

發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ツル爲電信局所ノ指示スル相當金額ヲ豫納スヘシ其ノ豫納金ハ著信局所ノ報知ニ依リ精算ス

第七十條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金貳拾錢ヲ納ムヘシ

第七十一條 艦船ニ宛テタル電報ニシテ別使配達及解船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人カ其ノ一方ノミヲ指定シタルトキハ其ノ不足料金ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十二條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

第七十三條 發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以内ニ限リ其ノ納付料金額ヲ記入シタル電報ノ受取證書ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ受取證書料トシテ受取證書一通毎ニ金參錢ヲ納付スヘシ

電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ  
第七十四條 發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ未タ傳送セサル電報ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

### 第六章 電線託送

第七十五條 電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ届出テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第七十六條 電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局電信局ニ連接スル電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信電話ノ施設者ハ電線託送料トシテ電報一通毎ニ金參錢ヲ納ムヘシ

第七十七條 前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信電話ノ施設者ニ送達スルモノハ一市區町村内ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ課ス

前條ニ依リ受クヘキ電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニ在ル電信局所ヘ賴信スルモノ亦同シ

第七十八條 電線託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便電信局電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十九條 郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權利ヲ失ヒタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ未納ノ電報料金ヲ即納スヘシ

第七十六條ノ届出ヲ爲シタル電話加入者加入ヨリ除名セラレタルトキ又ハ電線託送電報ノ發受ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十條 電線託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二十條ノ料金ヲ納付セサルトキハ其ノ滯納ノ期間電線託送電報ヲ發受スルコトヲ得ス

第七章 電報配達

第八十一條 電信局所(配達事務ヲ取扱ハサルモノヲ除ク)ヨリ陸上一里以内及其ノ局所所在ノ市區内ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ制限シ又ハ其ノ區域外ノ地ヲ區域内ニ編入スルコトアルヘシ

第八十二條 電報直配達區域内ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

第八十三條 電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ

配達方ノ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配達スルトキ亦同シ

第八十四條 電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使解船又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條 別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達

人ニ交付スヘシ

第八十六條 受信人自己ノ居住氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘキ者若ハ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條 受信人電報ノ配達ヲ待タス著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ著信局所ニ請求シテ局渡證票ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第八十八條 局渡證票ノ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ時々局渡證票ヲ示スヘシ

著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付スヘシ

第八十九條 局渡證票ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖著信ノ際證票ヲ所持スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條 局渡證票ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨交付ヲ受ケタル局所へ届出ツヘシ此ノ證票ハ其ノ報告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ效ヲ失フ

局渡證票ヲ亡失シタル者ハ更ニ證票ヲ請求スルコトヲ得

第九十一條 局渡證票不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條 略號又ハ配達先ノ登記及局渡證票ニ關スル料金並其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第九十三條 受信人名ヲ連記シタル電報ハ其ノ内ノ一名ニ配達スヘシ

第九十四條 電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得

其ノ電報ヲ開封シタル者ハ更ニ封緘シ尙其ノ事由ヲ付記スヘシ

第九十五條 受信人ニ受付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人ノ居住氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ揭示スヘシ

第九十六條 電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到着シタル日ヨリ三日以内ニ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ揭示スヘシ

第九十七條 發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日間トス

第八章 尋問改正及停止

第九十八條 發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

受信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第九十九條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納メ且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停止ヲ請求スルトキハ其ノ通知ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第一百一條 尋問、改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第一百二條 改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第一百三條 受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ假納スヘシ

假納ノ電報料ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

第一百四條 本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス

第九章 閱覽正寫

銀行會社法令大全 第七編 第二章 第一節 第二款 電報規則



第二百五條 發信人又ハ受信人ハ電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報搜索上必要ナル事項ヲ示ササルトキハ其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第二百六條 電報ノ閱覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニ在リテハ其ノ著信局所ニ請求スヘシ

第二百七條 電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ閱覽料トシテ電報一通ニ付金參錢正寫料トシテ和文ハ二百字以内毎ニ金五錢歐文ハ五十語以内毎ニ金拾錢ヲ納ムヘシ  
電報ノ正寫ニハ其正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第二百八條 通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第二百九條 至急電報料ハ左ノ如シ

- 官報 通常電報料ノ二倍
- 私報 通常電報料ノ三倍

第二節 返信料前納電報

第二百十條 電報ノ返信ヲ受ケムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ得其ノ電報ニ

ハ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

- 一 返信料前納ノ略符號 通常電報料ヲ前納スルトキ
  - 二 返信至急ノ略符號 至急電報料ヲ前納スルトキ
  - 三 返信照校ノ略符號 照校電報料ヲ前納スルトキ
- 和文十五字歐文五語ヲ超エテ返信料ヲ前納スルトキハ前項略符號ノ次ニ其ノ字數又ハ語數ヲ付記スヘシ

第二百十一條 返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲著信局所ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

- 一 返信料前納ノ金額
- 二 受信人名
- 三 發信局所名、發信年月日及發信番號
- 四 證書發行ノ年月日

第二百十二條 返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス此ノ期間ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第一百三條 返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金額ニ相當スル料金納付済ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之ヲ受付發送スヘシ  
若其ノ電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ返信用紙ニ貼付スヘシ

第一百四條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其證書ヲ使用シ著信局所ヨリ發信局所ニ其ノ旨課金局報ヲ以テ報知シ更ニ之ヲ發信人ニ通知スヘシ

第一百五條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ之ヲ著信局所ニ保管ス

著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求スルトキ又ハ該期間滿了後三十日以内ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節 照校電報

第一百六條 發信人ハ電報ノ照校ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ照校ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百七條 照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ反復校正スルモノトス

第一百八條 照校料ハ通常電報料ノ四分ノ一トス

第四節 受信電報

第一百九條 發信人ハ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受ケルコトヲ得其ノ電報ハ受信電報トシ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 電報受信報知ノ略符號 電報ヲ以テ報知ヲ受ケルトキ

一 郵便受信報知ノ略符號 郵便ヲ以テ報知ヲ受ケルトキ

第二十條 電報受信報知料ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金トシ郵便受信報知料ハ一通毎ニ金參錢トス

第二十一條 受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取紙ニ受取時刻ヲ記入シ捺印又ハ手摺シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電信又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 受信電報ノ發信人ニハ受取人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電信又ハ電話ヲ以テシタルトキハ送信セシ日時ヲ報知スヘシ

第二十三條 電信受信報知ノ日時ハ局報ヲ以テ郵便受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所ヘ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知ス

第二百二十四條 電報直配送區域外ニ居住スル發信人別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ受信日時ノ報知ヲ受ケムトスルトキハ賴信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納付スヘシ  
第二百二十五條 受信人ニ於テ受信電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配達シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第二百二十三條及第二百二十四條ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節 追尾電報

第二百二十六條 發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ  
第二百二十七條 追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ全ク記載セサルコトヲ得

第二百二十八條 追尾電報ハ受信人ノ居所分明ナル限り之ヲ追送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ヲ逐書シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ削除ス

第二百二十九條 追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一回毎ニ新ニ電報ヲ差出シタルモノトシテ計算シ之ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ

第二百三十條 左ニ掲クル電報ハ追尾電報トシテ發送スルコトヲ得ス

一 別使料電報報知ヲ要スル電報

二 別使料郵便報知ヲ要スル電報

三 返信料前納電報

四 受信電報

五 同文電報

六 外國郵送電報

第六節 再送電報

第三百一十一條 受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其新居所ヘ電報ノ再送ヲ要スルトキハ受信人又ハ宛所ノ者ヨリ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

第三百一十二條 留置電報著信局所ニ保管シ置キタル電報又ハ一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送請求ノ期間ハ著信ノ時ヨリ七十二時間トス

第三百一十三條 一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送ヲ請求スルトキハ其ノ電報送達紙ヲ差出スヘシ若返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻スヘシ

第三百一十四條 電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送スヘキ電報ニ記載シアル指定事項ノ削除ヲ請求シ又ハ第三百一十條ニ掲クル電報ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナル指定事項ノ記入ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十五條 返信料前納電報、受信電報、又ハ別使料ノ報知ヲ要スル電報ヲ再送スルトキハ其ノ指定事項ヲ削除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第四百十四條ノ例ニ依リ返信料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知若ハ別使料報知ノ代トシ電報再送ノ旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

第三百三十六條 電報ヲ再送スルトキハ電信局所ニ於テ再送電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第三百三十七條 電報ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送電報ノ發信人ト看做ス

第三百三十八條 再送電報ノ再送ニ關スル料金ハ第二百二十九條ノ例ニ依リ計算徴收ス

第三百二十七條及第二百二十八條ノ規定ハ再送電報ニ準用ス

第三百二十九條 同文電報ハ之ヲ再送スルコトヲ得ス但シ同文電報ノ指定ヲ削除シ一通ノ電報トシテ再送ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七節 同文電報

第四百十條 發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同クスル地方ニ居住スル數人又ハ數箇所ヘ宛テ同文ノ電報ヲ差出サムトスルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第四百十一條 同文電報ハ同文ノ略符號ヲ以テ指定シ同文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達スヘキモノハ前項ノ略符號ニ代フル同

文連名ノ略符號ヲ以テスヘシ

第四百十二條 同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又ハ語數ハ總テ之ヲ原信ニ併算ス

第四百十三條 同文電報ニハ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ同文料トシテ和文ハ金拾錢歐文ハ金拾五錢ヲ課ス

第四百十四條 至急電報、照校電報又ハ受信電報ヲ同文電報トナストキハ原信ニ各相當ノ略符號ヲ併記シ其至急又ハ照校ノ料金ハ原信一通ニ對シテ之ヲ納メ受信報知料ハ同文ノ通數ニ應ジテ之ヲ納ムヘシ

第四百十五條 前條ノ外同文電報ニ他ノ電報ノ指定事項ヲ併用セムトスルトキハ一通毎ニ其ノ相當符號ヲ記載スヘシ

第八節 外國郵送電報

第四百十六條 外國ヘ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定シ其著信局所名ヲ付記スヘシ

第四百十七條 外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金貳拾錢トス

第四百十八條 外國郵送電報ハ在清國及在韓國本邦郵便局所在地ニ宛テタルモノノ外歐文電報ニ限ル

附則

第四百十九條 此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治十八年(五月)布達第七號電報取扱規則二十三年(三月)遞信省令第三號歐文電報略號  
 常用料金額及其ノ納付手續同年(八月)遞信省令第十七號電報局渡規則同年(十一月)遞信省  
 令第二十一號電報配達人ニ電報差出方ヲ依頼スル規程同二十七年(七月)遞信省令第五號著  
 信局所ヲ指定スル規程同三十年(十二月)遞信省令第三十三號電話依託電報規則其ノ他此ノ  
 規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス  
 第五百十條 此ノ規則ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電線ニ依リ帝國外國間ニ往復スル電報  
 ニ適用セス

第三款 電信法ニ關スル雜則

第一 電信法第五條ノ電信及電話官署

遞信省告示第三百四十一號(明治三十三年九月)

電信法第五條ノ電信官署ハ一等郵便電信局電話官署ハ電話交換局トス

第二 電信法ニ依ル損害賠償及報酬ノ請求ニ

關スル件

遞信省令第五十八號(明治三十三年九月)

電信法第六條ニ依ル損害賠償又ハ同法第七條ニ依ル報酬ノ請求ハ其損害ヲ加ヘ又ハ助力ヲ受  
ケタル電信又ハ電話ノ工夫配達人ノ屬スル局所ヲ管轄スル一等郵便電信局又ハ電話交換局ニ  
之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ  
一等郵便電信局又ハ電話交換局ハ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求者ニ通知スヘシ

第三 電信局所ノ電報取扱時間及其時間外電

報取扱規則

電信局所ノ電報取扱時間及其ノ時間外電報取扱規則(明治三十六年十一月)  
(遞信省令第五十三號)

第一條 電信局所ノ電報取扱時間ハ左ノ三種トス

第一種

午前六時ヨリ午後十時マテ

第二種

午前八時ヨリ午後八時マテ

特種

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ必要ニ依リ定ムルモノ

第二條 左ノ電報ハ電報取扱時間外ト雖之ヲ取扱フ但シ郵便電信取扱所電信取扱所及郵便電信受取所電信受取所ニ於テ之ヲ取扱ハサルコトアルヘシ

一 至急電報

二 時間外電報

第三條 前條時間外電報トハ特ニ時間外ノ取扱ヲ要スル内國電報ヲ云フ

時間外電報ハ左ノ略符號ヲ以テ指定シ時間外取扱料ヲ納付スヘシ

一 時間外取扱ノ略符號

第四條 時間外取扱料ハ一通ニ付金貳拾錢トス

第五條 同文電報ヲ時間外電報トナストキハ其ノ原信ニ時間外取扱ノ略符號ヲ併記シ時間外取扱料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ金五錢トス

第六條 第一種局所ニ於テ時間内ニ受付ケタル電報ト雖著局所カ第二種以下ニ屬シ既ニ其取

扱時間ヲ經過シタルモノハ時間外電報トス

第七條 時間内ニ受付ケタル電報ト雖其ノ電報受信報知又ハ別使料電報報知カ時間外ニ涉ルトキハ時間外電報トス

第八條 電報取扱時間外ニ於テ電報ノ配達又ハ交付ヲ受ケムトスルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得但シ時間外ノ取扱ヲナササル郵便電信取扱所電信取扱所及郵便電信受取所電信受取所ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テハ時間外取扱料ヲ納付セシメ之ヲ配達交付ス

第九條 時間外取扱料ヲ納付シタル電報ニシテ時間外ノ取扱ヲ爲ササリシトキハ之ニ對スル時間外取扱料ハ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

附則

第十條 本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年(八月)遞信省令第三十四號時間ヲ定メテ通信取扱ヲ爲ス電信局所ノ電報取扱ニ關スル規則及明治三十六年(三月)遞信省令第九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四 電話機ニ依リ電報ヲ發受スル心得

遞信省告示第四十號(明治三十三年)

電報規則施行ニ付同規則第七十五條及郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ニ依リ電報ヲ發受スル心得左ノ通相定ム

一 電話加入者ニ於テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發送セムトスルトキハ其ノ地ノ電報取扱局ヲ呼出シ先ツ電報ヲ發スヘキ旨ヲ通シ而シテ後左ノ順序ニ依リ電報ヲ通話シ承諾ノ返辭ヲ受クヘシ

和文電報

一 電報ノ種類

官報私報ノ別

二 電報ノ字數

有料ナル居所氏名ノ字數ト本文ノ字數ヲ區別シテ通話スヘシ例ヘハ受信人二名以上ナレハ最初ノ一名ヲ除キ第二名以下ノ字數又電報發送紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名ノ記載ヲ受ケムトスルモノナレハ其ノ居所氏名ノ字數ヲ通話シ次ニ本文ノ字數ヲ通話スルノ類

三 受信人ノ居所氏名

電報發送紙ノ外部ニ發信人居所氏名ノ記載ヲ要スルモノナレハ其ノ居所氏名

五 指定事項

至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ略符號ヲ用ユヘカラス

六 電報ノ本文

本文ノ末尾ニ記載セムトスル發信人ノ居所氏名

八 賴信紙ノ餘白ニ記載スヘキ發信人ノ居所氏名又ハ電話番號

九 電報ニ付注意ヲ乞フノ必要アルトキハ其ノ事項

歐文電報

一 電報ノ種類

官報私報ノ別

二 電報ノ語數

有料語數ト實際ノ語數ト差異アルトキハ有料語數ノ次ニ實際ノ語數ヲ通話スヘシ例ヘハ十五字以上ヲ聯記シタル語辭ハ一語ト雖二語ニ計算サルルモノナレハ有料語數ヲ二語トシ實際ノ語數ヲ一語トスルノ類

三 指定事項

至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通常語ニテ通話シ略符號ヲ用ユヘカラス

四 電報發送紙ノ外部ニ發信人居所氏名ノ記載ヲ要スルモノナレハ其ノ居所氏名

五 受信人ノ居所氏名

六 電報ノ本文

本文ノ末尾ニ記載セムトスル發信人ノ居所氏名

八 頼信紙ノ餘白ニ記載スヘキ發信人ノ居所氏名又ハ電話番号

九 電報ニ付注意ヲ乞フノ必要アルトキハ其ノ事項

二 電報取扱局ニ於テ電話機ニ依リ電話加入者ヘ電報ヲ送ルトキハ左ノ順序ニ依ルヲ以テ順次之ヲ書取リ受了ノ後承諾ノ旨ヲ返答スヘシ若電報ノ字(語)數ニ相違アルカ又ハ不明瞭ノ廉アルトキハ質問ヲ爲スヘシ

和文電報

一 受信人ノ居所氏名

二 電報送達紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其居所氏名

三 電報ノ種類 官報私報ノ別

四 發信局名

五 電報ノ番號

六 受附ノ月日及時分

七 電報ノ字數 最初ニ有料ナル居所氏名ノ字數次ニ本文ノ字數

八 指定事項 至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ次ニ其ノ略符號ヲ通話ス

九 電報ノ本文

十 本文ノ末尾ニ發信人ノ居所氏名記載シアルトキハ其ノ居所氏名

十一 電報ニ關シ注意事項アルトキハ其ノ事項

歐文電報

一 受信人ノ居所氏名

二 電報送達紙ノ外部ニ發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其ノ居所氏名

三 電報ノ種類 官報私報ノ別

四 發信局名

五 電報ノ番號

六 電報ノ語數 有料語數ト實際ノ語數ト差異アルトキハ有料語數ノ次ニ實際ノ語數

七 受附ノ月日時分

八 指定事項 至急、返信料前納、照校又ハ別使配達等ト通話シ其ノ次ニ略符號ヲ通話ス

九 電報ノ本文

十 發信人ノ居所氏名記載アルトキハ其ノ居所氏名



十一 電報ニ關シ注意事項アルトキハ其ノ事項

三 電話機ニ依リ電報ヲ送受スルニ當リ暗號其ノ他通話上判明シ難キ語辭ハ左ノ番號表ニ依リテ辨明スヘシ殊ニ電報ノ文言ハ專ラ簡略ヲ主トスルカ故ニ普通文ニテモ發音ノ酷似セル(チトシ)(イトエ)又ハ(a t e)(m t u)ノ如キハ往々混同シ易ケレハ是等ノ文言ハ番號表ニ依リ通話スル方判然スヘシ

和文

片假名番號表

縱番號	一	二	三	四	五
一	ア	イ	ウ	エ	オ
二	カ	キ	ク	ケ	コ
三	サ	シ	ス	セ	ソ
四	タ	チ	ツ	テ	ト
五	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ

六	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
七	マ	ミ	ム	メ	モ
八	ヤ		ユ		ヨ
九	ラ	リ	ル	レ	ロ
十	ワ	ヰ		エ	ヲ
十一	ン	濁點	半濁點	長音	
十二	句讀點	新章	括弧	小括弧	歸除線

假令ハチジト電話スルニハ四ノ二、三ノ二、十一ノ二ト呼ヒ(ハ)ト電話スルニハ十二ノ三、六ノ一、十一ノ三、十二ノ三ト呼フノ類ニシテ濁點、半濁點ハ總テ其附スヘキ片假名ノ次、括弧ハ之ヲ圍ミタル文字ノ前後ニ電話スルモノトス

歐文

羅馬字番號表

銀行合社法令大全 第七編 第二章 第一節 第三款 電信法ニ關スル雜則

横番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
縦番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
	A	B	C	D	E	Z	Ö	●終點	！感符	“”轉倒句讀
		G	H	I	J	U	Ü	，讀	，畧符	一字下線
		L	M	N	O	P	Á	；小讀	//新章	/歸除線
		Q	R	S	T	K	É	：重點	—連續	
		V	W	X	Y	F	Ë	？間標	()括弧	
		Y	X	W	V	G	Ñ			
		Q	R	S	T	L				
		L	M	N	O	G				
		G	H	I	J	B				
		B	C	D	E	A				

假令ハ％ト電話スルニハ一ノ三、十ノ三、三ノ五ト呼ヒdyト電話スルニハ十ノ二、一ノ

二、五ノ五、十ノ二ト呼フノ類ニシテ字下線ハ之ヲ施シタル話辭ノ前後ニ電話スルモノトス

四 郵便電信局電信局ニ連接スル官應用又ハ私設ノ電信線又ハ電信線ヲ以テ發受スル電報ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル規程ニ依リ送受スヘシ

五 電線ニ依リ電報ヲ發送スルトキハ豫メ文案ヲ作り字數又ハ語數ヲ計算シ置キ通信上少シモ支障ナキ様準備スヘシ

六 電線託送電報發受者ヨリ發スル電報又ハ其ノ依頼ニ依リ發スル電報ニシテ料金ヲ豫納又ハ假納スヘキモノハ其ノ取扱局ヨリ確定シタル料金額ノ通知ヲ受クルモノトス

七 電線託送電報發受者ヨリ電報ヲ發送スル場合ニ於テ自家ノ領收スヘキ返信料前納電報ノ返信用紙ヲ使用セムトスルトキハ先ツ其ノ旨並前ニ通知ヲ受ケタル返信料前納證書ノ番號ヲ通知シ次ニ電報ヲ送ルヘシ

八 電線託送電報發受者ニ於テ受クヘキ電報カ返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ取扱局ヨリ證書發行ノ月日前納ノ金額及證書ノ番號ヲ通知セラルヘク又其ノ電報ニ關シ發受者ノ追納スヘキ料金アルトキハ其ノ金額並事由ヲ通知セラルヘキモノトス而シテ其ノ返信料前納證書ハ前條ニ依リ使用シタルモノヲ除キ翌月十日迄ニ料金納付方ノ通知書ト共ニ交付

第五 電信電話ニテ海外電報發受ノ件

遞信省令第六十二號(明治三十三年九月)

海外電報ハ明治三十三年(九月)遞信省令第四十五號電報規則第七十五條乃至第八十條ニ據リ  
電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ之ヲ發受スルコト  
ヲ得本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

第六 略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額  
及其ノ納付手續

略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續(明治三十三年九月 遞信省令第四七號)

第一條 略號登記料又ハ配達先登記料ハ登記一箇毎ニ年額金拾貳圓トス

局渡料ハ證票一箇毎ニ年額金六圓トス

第二條 前條ノ料金ハ年額ヲ二分シ左ニ掲クル二期ノ別ニ從ヒ一期分毎ニ登記又ハ交付ヲ受  
クル電信局所ニ前納スヘシ但シ一二等郵便電信局電信局及在外電信局所ニ在リテハ通貨ヲ

以テ之ヲ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ九月三十日マテ

第二期 十月一日ヨリ三月三十一日マテ

第三條 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受ケ若ハ局渡證票ノ交付ヲ受クルトキト  
雖其ノ期ノ料金全額ヲ納付スルモノトス

第四條 一期ノ中途ニ於テ略號又ハ配達先ノ登記ヲ取消シ又ハ局渡證票ヲ返還スルトキト雖  
其ノ期ノ料金ハ之ヲ還付セス

第五條 電報規則第九十條第二項ニ依リ更ニ證票ヲ請求スルトキハ證票料トシテ金貳拾錢ヲ  
納ムヘシ

第六條 同一ノ略號ヲ内國電報及外國電報ニ通シ用ウル場合ト雖各別ニ其ノ料金ヲ納付スル  
ニ及ハス

第七條 従前ノ規定ニ依リ此ノ規則施行ノ日以後ニ係ル略號常用料又ハ電報局渡料ヲ前納シ  
タルモノハ引續キ其ノ略號ノ登記又ハ局渡證票ノ交付ヲ受クルモノト看做シ更ニ此ノ規則  
ニ依リ料金ヲ計算シ不足額ハ之ヲ追納セシメ過剩額ハ之ヲ還付ス

第七 電信法ヲ無線電信ニ準用ノ件

遞信省令第七十七號(明治三十三年十月)

電信法ハ第二條第三條第二十八條及第四十三條ヲ除クノ外之ヲ無線電信ニ準用ス

第八 内地ト臺灣又ハ樺太及ヒ臺灣樺太間ノ

私報ノ通常電報料

遞信省令第二十三號(明治三十九年五月)

左記各地間ニ受發スル私報ノ通常電報料左ノ通之ヲ定メ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年(十月)遞信省令第四十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

- 一 内地ト臺灣又ハ樺太トノ間 和文片假名十五字以内 金四拾錢  
五字以内ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ増ス
- 二 臺灣樺太間 歐文五語以内 金五拾錢  
一語ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ増ス

第二節 私設電信

第一款 私設電信規則

私設電信規則(明治三十三年九月遞信省令第四十八號  
同三十五年同省令第四十號迄二次改正)

第一條 此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲クル電信又ハ電話ヲ謂フ

第二條 電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ專用ニ供スルモノニ限ル

- 一 私設鐵道法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道又ハ軌道ノ事業
- 二 運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及ヒ氣象觀測ノ事業
- 三 高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電信事業

四 前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業

第三條 電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第四條 私設電信ヲ施設セムトスル者ハ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ私設鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ專用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條 許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一 施設ヲ必要トスル事由

二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線

三 機械設置ノ場所 道府縣郡市區 及線路經過地名 町村字番地

四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

隣接市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施

設セムトスルトキハ第一項書類ノ外之ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ逓信大臣ニ

願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條 第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以内ニ

左ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ

一 工事落成月日

二 工事設計 機械ノ種類及箇數、線路ノ亘長、空架線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、線路ノ種類、太サ及延長並保安裝置方法

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ届出ヘシ

第八條 第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日以内ニ第五條第一項第二號

第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公

衆通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項第二號ニ限り逓信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私設電信ヲ讓渡サムトスルトキハ第四條但書ノモノヲ鐵道相互間ニ讓渡ス場合ヲ除

クノ外當事者雙方連署ノ上逓信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相

互間ニ讓渡シタルトキハ七日以内ニ當事者雙方連署ノ上逓信大臣ニ届出ヘシ

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ私設電信ヲ繼承シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ

第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ逓信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢止シ又

ハ中止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ヘシ

第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルト

キハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ連接郵便電信局又ハ電信局ニ届出ヘシ

第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ私設電信ノ使用ヲ中止シ一箇年以上ニ及ビタルトキハ廢止シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 市街地ニ限リ道路ニ架設スル私設電信ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

- 一 道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニノミ架設スヘシ
- 二 道路ノ一側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ若其ノ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ

第十四條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ニ障害ヲ與ヘサル様隔離スヘシ其ノ隔離二尺ニ滿タサルトキハ其電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用空架電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ逓信

大臣ノ認可ヲ得テ此制限ニ依ラサルコトヲ得

- 一 交叉ノ場合ニハ電燈電力又ハ電氣鐵道用最低電線ノ下部ニ於テ三尺以上ヲ隔離スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ニ限リ其ノ上部ニ三尺以上ヲ隔離シテ交叉スルコトヲ得
- 二 接近ノ場合ニハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ三尺以上特別高壓電線ニ在リテハ電柱地表上高サノ二倍以上ヲ隔離スヘシ
- 三 特別ノ事由ニ依リ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ電柱ニ添架スルトキハ低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ二尺以上特別高壓電線ニ在リテハ四尺以上其ノ最低電線ノ下部ニ隔離スヘシ

第十六條 私設電信ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用空架電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ裝置ヲ施スヘシ其ノ已ニ架設シタル後ニ於テ交叉接近若ハ添架ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

- 一 低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ電信又ハ電話線ノ機械ニ出入スル各端ニ於テ五 ムベア以下ニテ溶解スル安全器、三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及二百五十「ミリアムベア」以下ニテ溶解スル安全器ヲ設備スヘシ

二 特別高壓電線ニ在リテハ遞信大臣ノ認可ヲ經タル適當ノ保安裝置ヲ施スヘシ  
第十七條 屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分隔離シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條 私設電信ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事著手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第二十條 電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便電信局又ハ電信局ニ施設スル私設電信ノ引込及裝置工事並其ノ維持ハ遞信省之ヲ執行ス

前項ノ私設電信施設者ハ遞信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金ヲ納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 遞信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 遞信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシ

ムルコトアルヘシ

第二十三條 私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ遞信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條 此ノ規則ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄一等郵便電信局ヲ經由スヘシ

第二十五條 第六條第八條但書第九條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條第八條第九條第二項及第三項若ハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條第十八條第二十条及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

附 則

第二十八條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條  
第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便電信局又ハ電信局トノ間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其ノ既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第二十一條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年(三月)遞信省令第四號電信電話線私設條約其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

### 第二款 私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則

#### 私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則 (明治三十三年九月遞信省令第五十號 同三十九年同省令第十三號第三次改)

第一條 電信法第二條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其取扱所ノ名稱位置ハ別ニ之ヲ告示ス但通信取扱時間ニ制限ナキ取扱所ノ電報受付時間ハ當該取扱所前ニ之ヲ揭示ス

第二條 私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ專用ノ電報ハ公衆電報中ノ私報又ハ至急私報ト同一ノ順位ヲ以テ傳送スヘシ但シ鐵道業ノ專用ニ供スル電信又ハ電話ナルトキハ其ノ專用ノ電報ハ公衆電報ニ先チ傳送スルコトヲ得

第三條 公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ電報取扱料トシテ左ノ區別ニ依リ其ノ私設者ニ之ヲ支給ス但シ同文電報ノ送受ニ對シ支給スヘキ料金ハ第一號乃至第四號料金ノ半額トス

- 一 官報、私報ノ發信
- 二 官報、私報ノ著信

- 一通毎ニ金五錢
- 一通毎ニ金四錢



- 三 官報、私報ノ中繼信 一通毎ニ金五錢
- 四 官報、私報ノ交換通信 一通毎ニ金壹錢
- 五 電報直配達區域内ノ配達 一通毎ニ金四錢

第四條 (削除)

第五條 公衆通信ノ取扱所ニ於テ別使配達又ハ舩船配達ヲ爲シタルトキハ其ノ取扱料トシテ別ニ定ムル金額ヲ支給シ電報ノ受取證書又ハ電報ノ正寫ヲ交付シタルトキハ其ノ取扱料トシテ電報規則ニ定ムル受取證書料又ハ正寫料ノ全額ヲ支給ス

第六條 電報送受ノ爲郵便電信局又ハ電信局ニ連接スル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ期間電報ノ託送ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 此ノ規則ハ明治三十三年(九月)勅令第三百五十六號第二項ニ依リ公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ニ之ヲ準用ス但シ第三條ノ取扱料金ハ鐵道所屬ノモノヲ除クノ外當該官廳ノ請求ナキトキハ之ヲ支給セス

附則

第八條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十八年(十月)遞信省令第六號及同二十九年(八月)遞信省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

第三款 私設電信規則第二十條ノ料金額及其ノ納付手續

遞信省令第四十九號(明治三十三年九月)

第一條 私設電信規則第二十條第二項ニ依ル維持料ノ金額左ノ如シ

電信機 一箇ニ付 年額金百六拾圓

電話機 一箇ニ付 年額金八拾圓

第二條 維持料ハ私設電信連接ノ郵便電信局ニ納付スヘシ但シ電信局又ハ三等郵便電信局ニ連接スルモノハ其ノ管轄一等郵便電信局ニ納付スヘシ

第三條 維持料ハ年額金ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每期ノ初月十日マテニ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ 六月三十日マテ

第二期 七月一日ヨリ 九月三十日マテ

第三期 十月一日ヨリ 十二月三十一日マテ

第四期 一月一日ヨリ 三月三十一日マテ

銀行會社法令大全 第七編 第二章 第二節第三款私設電信規則申料金及納付手續 七百五十七

第四條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ開始スヘキトキハ其ノ期ノ維持料ハ開始ノ月ヨリ其ノ期ノ末月マテノ月數ヲ年額ニ乗シ之ヲ十二分シテ算出シ通報開始ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第五條 一期ノ中途ニ於テ通報ヲ廢止、中止又ハ停止シタルトキト雖其ノ期ノ維持料金額ヲ納付スルモノトス

一期ノ初日ヨリ通報ヲ廢止シ又ハ中止スル場合ニ於テ私設電信規則第十一條ニ依ル届出ヲ爲ササルトキハ其ノ期ノ維持料金額ヲ納付スルモノトス

第六條 一期ノ中途ニ於テ機械ノ種類ヲ變更シタルトキト雖其ノ一期分ハ變更前ノ割合ヲ以テ維持料ヲ納付スルモノトス但シ低額ノ維持料ヲ納ムヘキモノヨリ更ニ高額ノ維持料ヲ納ムヘキモノニ變更シタルトキハ第四條ノ規定ニ準シテ其ノ差額ヲ算出シ變更ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第七條 郵便電信局又ハ電信局ニ連接スル電鈴線ノ正午通報料ハ前各條ノ規定ニ依リ一回線ニ付年額金拾貳圓ヲ納付スヘシ

### 第二節 韓國内及韓國ト本邦間ノ電報

#### 第一款 韓國内電報規則

韓國内電報規則(明治三十八年六月遞信省令第四十號  
同年十月同省令第六十六號迄數次改)

第一條 韓國内ニ於テ發著スル電報ニ關シ本規則ニ規定ナキ事項ハ明治三十三年(九月)遞信省令第四十六號電報規則ヲ準用ス但シ諺文電報ニ關シテハ電報規則第五百五條乃至第七條ヲ除クノ外和文電報ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以内毎ニ諺文電報ハ諺文三字以内毎ニ一語トス但シ諺文電報ノ指定事項ニ用ヰタル略符號ハ各之ヲ諺文一字ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第三條 通常電報料ハ一語ニ付キ金拾錢トス

和文電報及諺文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖一語分ノ電報料ヲ課ス

第四條 軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ軍用電信線ニ在リテハ他ノ官報ニ先タチ傳送ス

第五條 電信局所ヨリ陸上一里以内ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其區域ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第六條 別使又ハ解船ヲ以テ配達スヘキ電報ノ配達料ハ別ニ之ヲ告示ス

第七條 返信料前納電報ニシテ和文又ハ諺文一語歐文二語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルトキハ其ノ略符號ノ次ニ返信ノ語數ヲ附記スヘシ

第八條 本邦ニ宛テ郵送スル和文電報ハ外國郵送電報トス

第九條 和文電報及諺文電報ノ電信受信報知料並別使料電報々知ニ要スル料金ハ一通毎ニ二語分ノ通常料金トス

第十條 電報規則第百十四條ノ場合ニ於テ和文又ハ諺文一語歐文二語ノ通常料金ヲ控除シ尙ホ前納ノ返信料金ニ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

第十一條 諺文ハ電話加入者ノ使用ニ屬スル電話機又ハ電信局所ニ連接スル私設ノ電信電話ヲ以テ發受スルコトヲ得ス但シ公衆通信ノ用ニ供シタル私設電信線ニ在リテハ特ニ之ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第二款 本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則

直發著電報取扱規則

本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電信取扱規則

(明治三十三年逓信省令第八號 同三十八年同省令七三號迄數次改)

第一條 對馬釜山間海底電信線ヲ經テ本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間ニ直發著スル電報ハ此規則ニ定ムルモノノ外萬國電信條約ニ據リ取扱フヘシ

第二條 和文電報ハ片假名數字ヲ通シテ七字以内毎ニ一語トス  
字數ニ算入スヘキ文字ノ記載ナキ和文電報ハ一語トシテ料金ヲ課ス

第三條 軍事ニ關スル本邦政府ノ官報ハ軍用電信線上ニ在リテハ他ノ官報ニ先タチ傳送ス  
第四條 左ニ掲クルモノハ内國電信ノ規定ヲ準用ス

一 和文電報ノ書法及字數計算

二 歐文電信ニシテ郵便受信報知及別使若ハ解船配達ヲ要スルモノノ略符號

三 局待又ハ親展トナシタル電報

四 同文電報料額

五 原信正寫手數料額

六 郵便ニ依リ又ハ電報受付函ニ差入レ若ハ電報配達人ニ依託スル電報ノ差出及受附

七 電報料及手數料ノ納付手續

八 電報受取證書手數料

九 電報ノ配達

十 傳送前電報返還ノ手数料

十一 和文電報ニ關シテ假納シタル尋問校正料ノ還付額

十二 電報料及手数料ノ還付ニ要スル物件

第五條 萬國受信條約第七條ニ據リ停止シタル電報ノ料金ハ之ヲ還附セス

第六條 電信受信報知ヲ要スル電報ハ歐文ハ五語分和文ハ二語分ノ料金ヲ増納スヘシ

郵便受信報知ヲ要スル電報ハ内國郵便稅率ニ據リ其便郵稅ヲ増納スヘシ

第七條 無手数料配達區域外ニ住居スル發信人ニ於テ別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ受信報

知ノ配達ヲ得ントスルトキハ賴信紙ノ端末ニ其旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八條 韓國ニ宛タル電報ニシテ著信局所在地ニ配達スルモノハ手数料ヲ要セス但解船配達

ハ此ノ限ニアラス

第九條 韓國無手数料配達區外ニ宛タル電報ニシテ書留郵便又ハ別使ヲ以テ配達スヘキモ

ノ及釜山港又ハ仁川港碇泊ノ艦船ニ宛タル電報ニシテ書留郵便又ハ解船ヲ以テ配達スヘ

キモノハ書留郵便、別使又ハ解船配達ノ略符號ヲ以テ之ヲ指定スヘシ其配達方ヲ指定セサ

ルモノハ無料ノ普通郵便ヲ以テ之ヲ配達ス

第十條 書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ其配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

第十一條 在韓國郵便局所ニ於テ別使又ハ解船ヲ以テ配達スヘキ電報ノ配達料ハ別ニ之ヲ告  
示ス

第十二條 前條ニ據リ別使又ハ解船ヲ以テ配達スヘキ電報ノ發信人ハ其配達料ヲ納ムヘシ

第十三條 外國ニ郵送スヘキ和文電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第三章 電話

第一節 電話規則

電話規則(明治三十九年六月  
逓信省令第二五號)

第一條 電話加入ヲ分テ左ノ三種トス

一 單獨加入 一加入ニ付一回線ヲ有スルモノ

二 共同線加入 二加入共同シテ一回線ヲ有スルモノ

三 連接加入 單獨加入ニ連接シテ一加入ヲナスモノ

第二條 電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ其ノ加入區域ハ別ニ之ヲ定

ム

第三條 共同線加入ノ電話機設置場所ハ相手方タル共同線加入ノ線路ヨリ直徑二町以内ノ場